



アクセスポイントの設置

この章では、アクセスポイントの設置方法について説明します。

- 壁面または支柱への取り付け (1 ページ)
- アクセスカバーの取り扱い (30 ページ)
- 外部アンテナの取り付け (32 ページ)
- アクセスポイントの接地 (37 ページ)
- リセットボタンの使用 (39 ページ)
- アクセスポイントへの電源供給 (39 ページ)
- データ ケーブルの接続 (46 ページ)
- メンテナンスの実施 (52 ページ)

壁面または支柱への取り付け

この項では、アクセスポイントの物理的な設置方法について説明します。アクセスポイントの取り付け担当者は、無線アクセスポイント、ブリッジ技術、および接地方法に精通している必要があります。



注意 壁面への取り付け方法はすべて、各管轄地域で許可された方法であることが条件です。

設置オプション

Cisco Catalyst IW6300 Heavy Duty シリーズ アクセスポイントは、支柱や壁面への設置に使用する支柱取り付けキット (IOT-ACCPMK) を使用して設置します。



警告 この機器の設置、交換、または保守は、訓練を受けた相応の資格のある人が行ってください。
ステートメント 1030



警告 機器の取り付けは各地域および各国の電気規格に適合する必要があります。ステートメント 1074

取り付けの詳細については、次の項を参照してください。

アクセスポイントの取り付け方向

Cisco Catalyst IW6300 Heavy Duty シリーズ アクセスポイントは、アンテナを上向きにして垂直に設置するように設計されています。アンテナを下向きにする場合は、エクステンダブラケットキット (IOT-ACCPMK-LB=) を使用する必要があります。他の取り付け方向では、安全な場所でも危険な場所でも準拠に必要な IP66/67 およびタイプ 4X の入力定格が低下します。

アクセスポイントはシステム LED が下を向き、アクセスカバーが外側を向くように配置します。このように配置することで、LED がアクセスポイントの下にいる人から見えるようになります。また、I/O インターフェイスは底面にあり、ポートが適切に密閉されていない場合でも湿気の侵入を最小限に抑えます。



(注) 全方向性アンテナは、放射電波が垂直偏波なので垂直方向に取り付ける必要があります。

次の図に、アクセスポイントの寸法を示します。

図 1: ユニットの寸法 : 前面

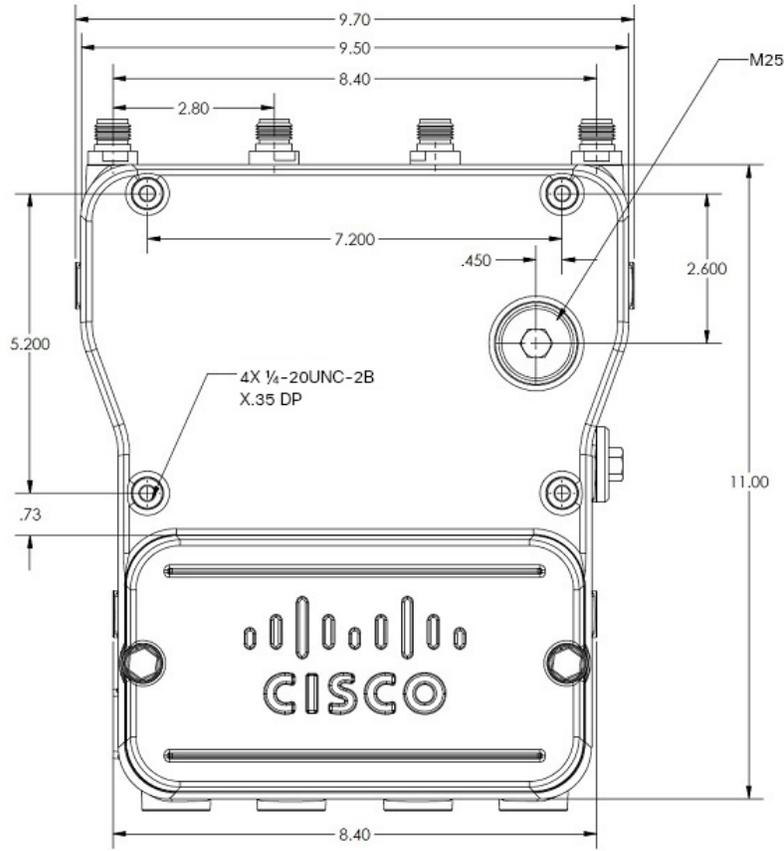
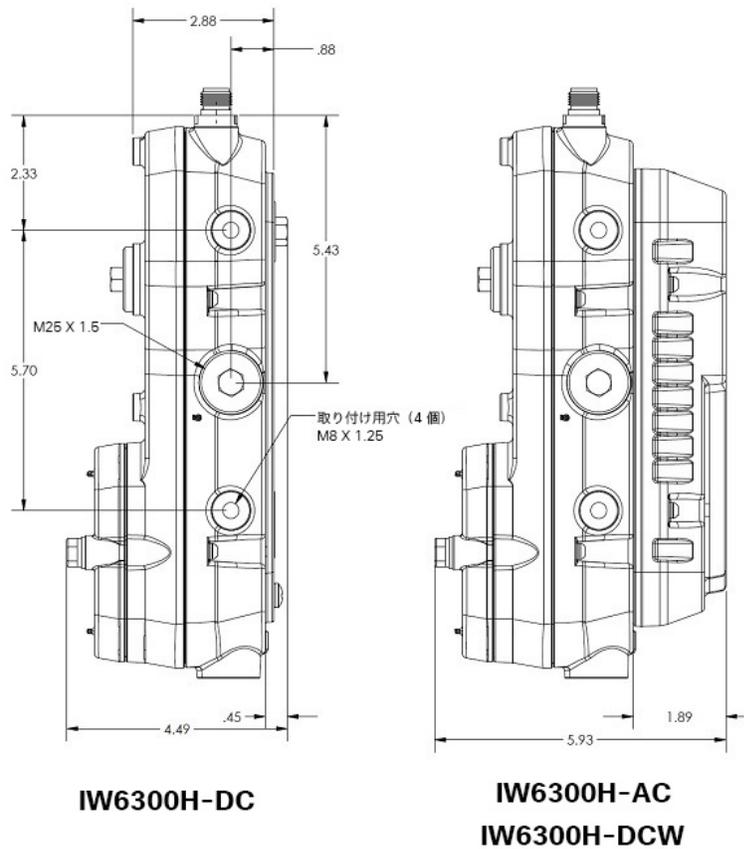


図 2: ユニットの寸法：側面



壁面へのアクセスポイントの取り付け

オプションの柱取り付けキットには、壁面取り付け用の取り付けブラケットが付属しています。取り付けブラケットをテンプレートとして使用し、設置用の取り付け穴の位置に印を付けることができます。準備が整ったら取り付けプレートを設置し、アクセスポイントを取り付けます。次の表に、支柱取り付けキット以外に用意する必要のある資材を示します。

表 1: アクセスポイントの垂直壁面取り付けに必要な資材

必要な資材	キットに付属
アースラグとネジ (アクセスポイントに付属)	○
アースラグの圧着工具	×
M8 または 31 mm (5/16 インチ) のネジ 4 本	×
ウォールアンカー 4 個 (壁面の材質に適したもの)	×

必要な資材	キットに付属
ウォールアンカー用ドリルビット	×
電動ドリルと標準的なドライバ	×
#6-AWG アース線	×
シールド付き屋外用イーサネットケーブル (CAT5e 以上)	×
アースブロック	×
接地棒	×
13 mm メガネレンチまたはソケットセット	×



注意 取り付け面、取り付けねじ、およびオプションのウォールアンカーには、22.7kg (50ポンド) の静止耐荷重が必要です。

ネジ穴の位置に印を付けるためのテンプレートとして取り付けブラケットを使用できます。垂直壁面にアクセスポイントを取り付ける手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 取り付けブラケットをテンプレートとして使い、取り付け面に4つのネジ穴の位置の印を付けます。取り付け穴や取り付けスロットを別途設けてもかまいません。

図 3: 取り付けブラケットの寸法

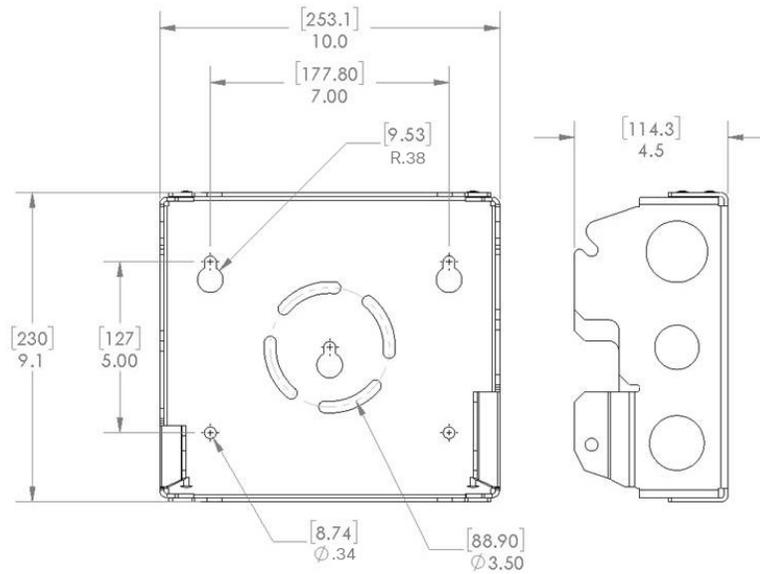
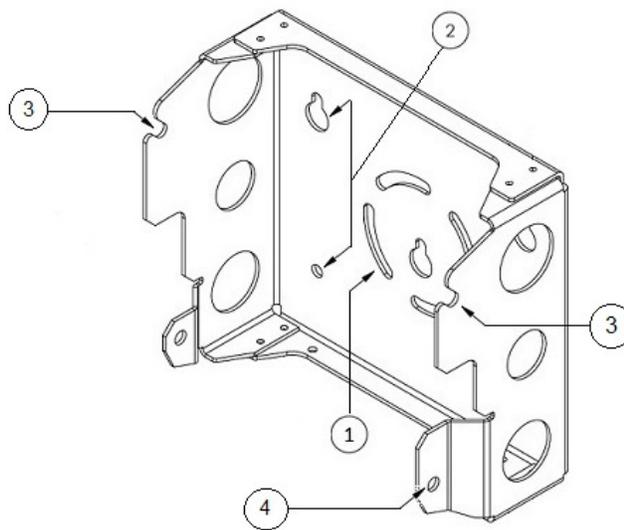


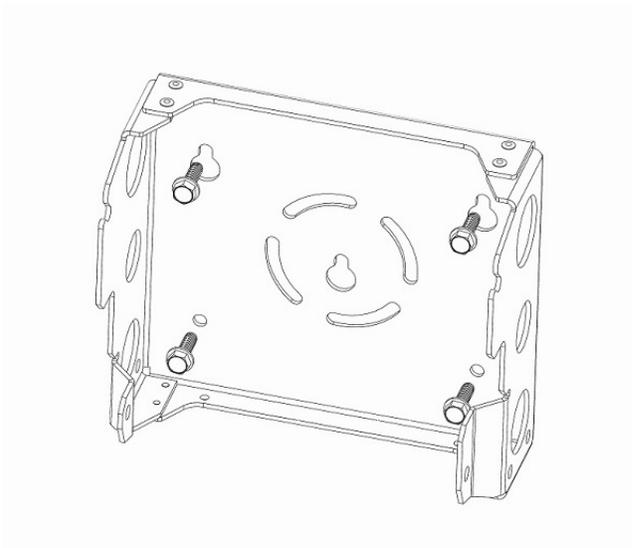
図 4: 取り付けブラケットのネジ穴の位置



1	取り付けスロット	3	ハンズフリー接続ポイント
2	取り付け穴	4	2 番目のボルト支持穴

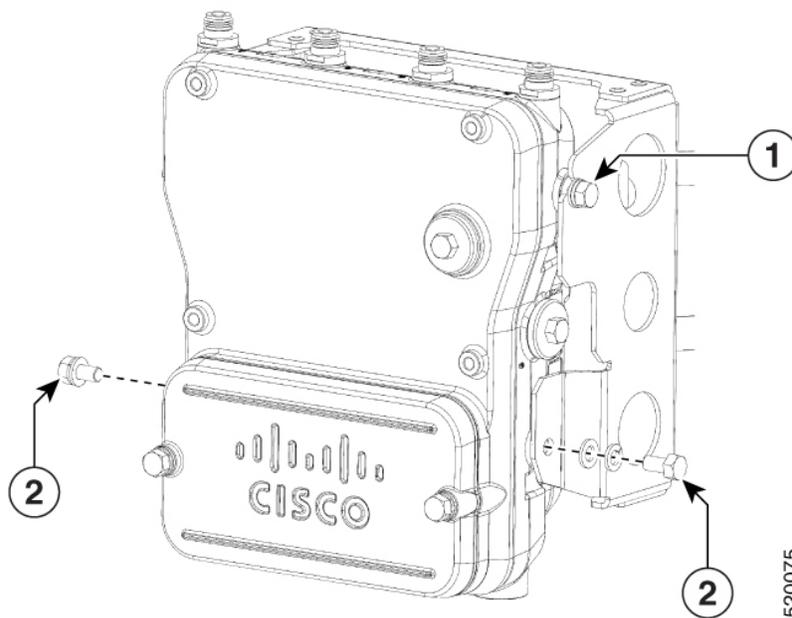
ステップ 2 別途用意したネジ4本とオプションのネジアンカーを使用して、取り付けプレートを取り付け面に付けます。

- (注) 化粧しっくい、セメント、またはドライウォールの壁面には、必要に応じて、適切なネジアンカーおよび屋外仕様の合板の背板を使用してアクセスポイントを取り付けます。



- ステップ3** アクセスポイントの両側の上部サポートボルト穴に M8 x16 ボルト（平座金とゆるみ止め座金付き）をねじ込みます。ボルトは完全に締めるのではなく、0.635 cm（0.25 インチ）程度のすき間を空けてください。
- ステップ4** アクセスポイントの2本のボルトを、取り付けブラケットの両側のハンズフリー接続ポイントの位置に合わせます。アクセスポイントのカバーが外側を向いていることを確認します。完全に設置するまでアクセスポイントを離さないでください。

図5: 支持ボルトの設置



L ブラケットによる壁取り付け

1	上部支持ボルト (M8 x16)	2	2 番目の支持ボルト (M8 x16)
---	------------------	---	---------------------

- ステップ 5** 平ワッシャおよびスプリングワッシャとともに、M8 x16 ボルトをアクセスポイントの各側面の 2 番目のボルト穴にねじ込みます。
- ステップ 6** アクセスポイントの前面が垂直であることを確認し、4 本のボルトを 6 ~ 7 フィートポンド (8.1 ~ 9.5 Nm) で締めます。
- ステップ 7** Cisco Aironet デュアルバンド全方向性アンテナを使用する場合は、アンテナをアクセスポイントに接続します。アンテナをアクセスポイントに手でねじ込みます。
- ステップ 8** 「[アクセスポイントの接地 \(37 ページ\)](#)」と「[アクセスポイントへの電源供給 \(39 ページ\)](#)」に進みます。

L ブラケットによる壁取り付け

Cisco Catalyst IW6300 Heavy Duty シリーズ アクセスポイントには、アンテナを上向きにして垂直に設置するように設計されています。アンテナを下向きにする場合は、追加の L ブラケット (IOT-ACCPMK-LB) を使用する必要があり、お客様が指定した RF ケーブルが必要です。



注意 取り付け面、取り付けねじ、およびオプションのウォールアンカーには、22.7kg (50 ポンド) の静止耐荷重が必要です。

ネジ穴の位置に印を付けるためのテンプレートとして取り付けブラケットを使用できます。垂直壁面にアクセスポイントを取り付ける手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** 取り付けブラケットをテンプレートとして使い、取り付け面に 4 つのネジ穴の位置の印を付けます。取り付け穴や取り付けスロットを別途設けてもかまいません。

図 6: 取り付けブラケットの寸法

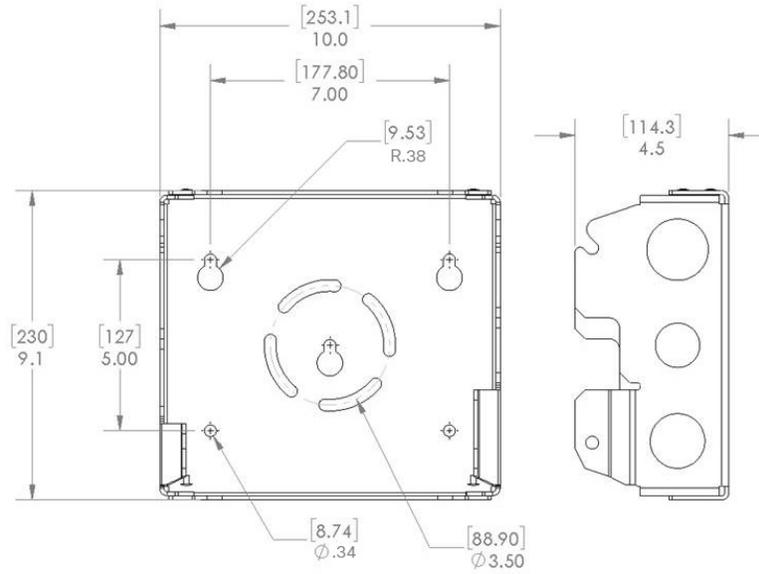
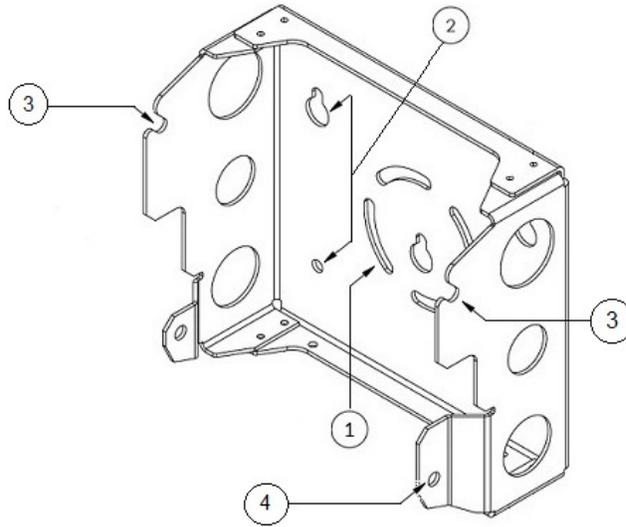


図 7: 取り付けブラケットのネジ穴の位置

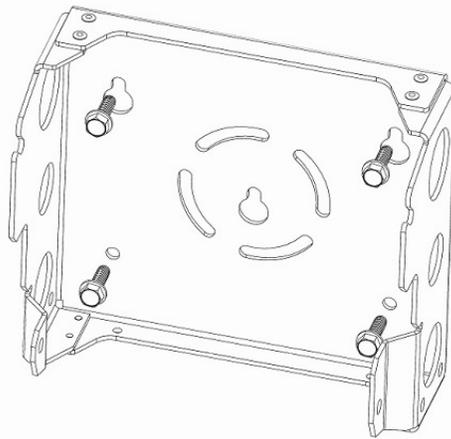


1	取り付けスロット	3	ハンズフリー接続ポイント
2	取り付け穴	4	2 番目のボルト支持穴

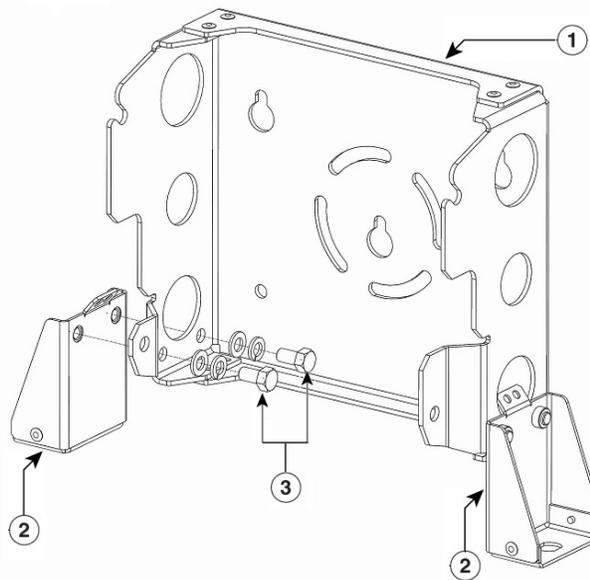
ステップ 2 別途用意したネジ4本とオプションのネジアンカーを使用して、取り付けプレートを取り付け面に付けます。

L ブラケットによる壁取り付け

(注) 化粧しっくい、セメント、またはドライウォールの壁面には、必要に応じて、適切なネジアンカーおよび屋外仕様の合板の背板を使用してアクセスポイントを取り付けます。

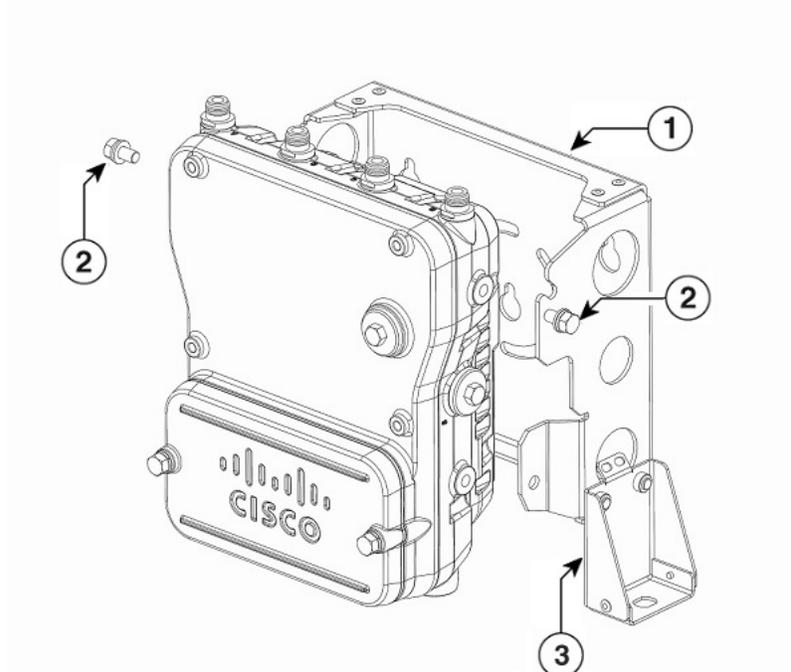


ステップ3 以下に示すように、4本のボルト（平座金とゆるみ止め座金付き）を使用して、Lブラケットを取り付けブラケットに取り付けます。ボルトを6〜7フィートポンド（8.1〜9.5 Nm）で締めます。



1	取り付けブラケット	3	M8 x16 ボルト
2	L 字金具		

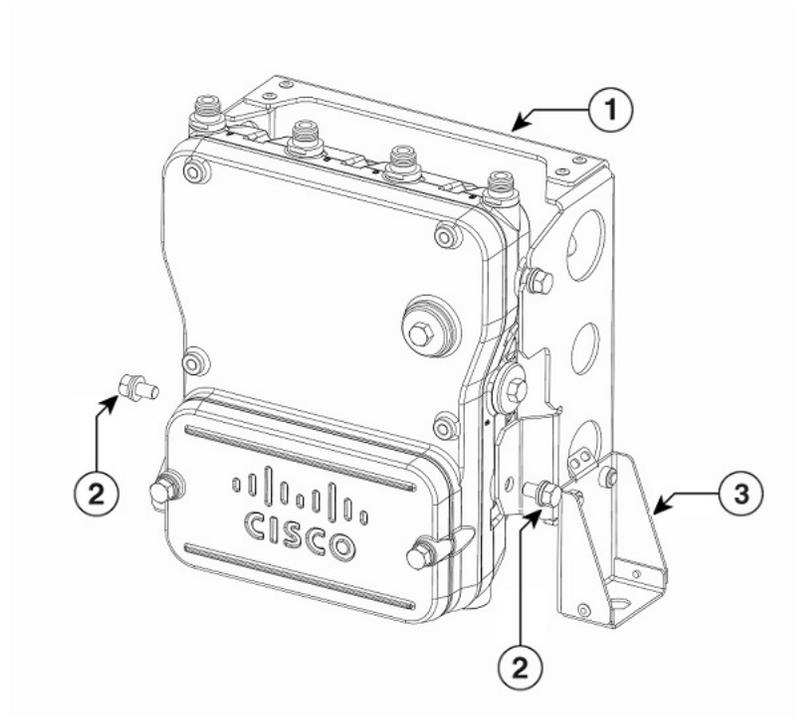
- ステップ 4** アクセスポイントの両側の上部サポートボルト穴に M8 x16 ボルト（平座金とゆるみ止め座金付き）をねじ込みます。ボルトは完全に閉めるのではなく、0.25 インチ（0.635 cm）ほどのすき間を空けてください。



1	取り付けブラケット	2	上部支持ボルト（M8 x16）
3	L 字金具		

- ステップ 5** アクセスポイントの2本のボルトを、取り付けブラケットの両側のハンズフリー接続ポイントの位置に合わせます。アクセスポイントのカバーが外側を向いていることを確認します。完全に設置するまでアクセスポイントを離さないでください。
- ステップ 6** M8 x16 ボルト（および平座金とゆるみ止め座金）をアクセスポイントの各側面の2番目のボルト穴にねじ込みます。

図 8: 支持ボルトの設置

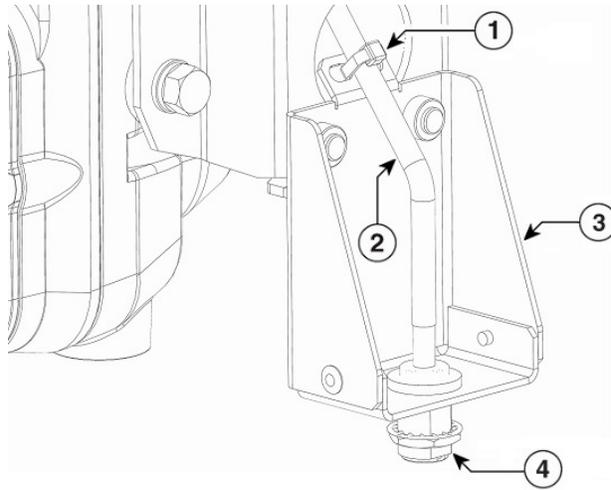


1	取り付けブラケット	2	2 番目の支持ボルト (M8 x16)
3	L 字金具		

ステップ 7 アクセスポイントの前面が垂直であることを確認し、4 本のボルトを 6 ~ 7 フィートポンド (8.1 ~ 9.5 Nm) で締めます。

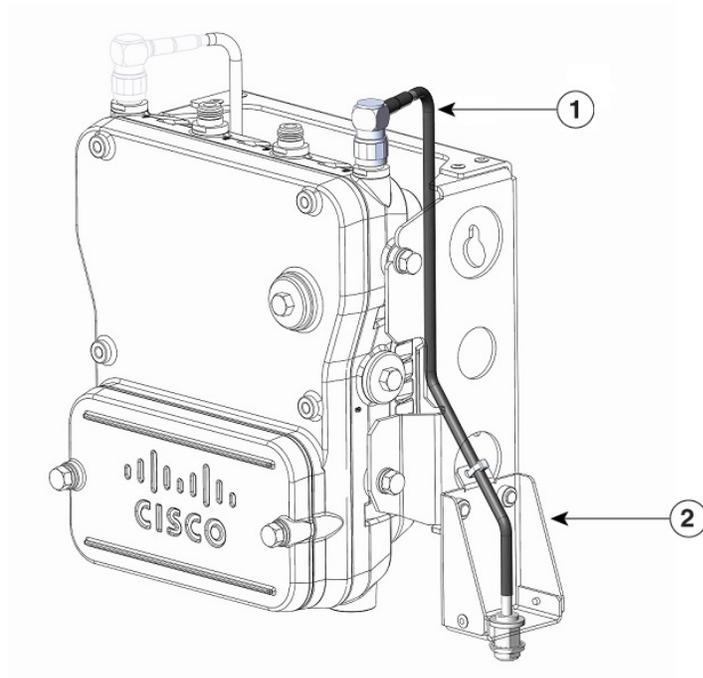
ステップ 8 RF ケーブルの N コネクタを L ブラケットに挿入し、平座金とナット (トルク 12 ~ 15 インチポンド) で取り付けます。以下に示すように、RF ケーブルをケーブルタイで L ブラケットに固定します。

(注) RF ケーブルの場合、直角 N 型オスから N 型メスのバルクヘッドコネクタを備えた 17 インチ LMR240DB ジャンパーを使用することをお勧めします。このケーブルの詳細については、「<https://ventevinfra.com/product/17in-lmr240db-jumper-with-right-angle-n-style-male-to-n-style-female-bulkhead-connectors/>」を参照してください。



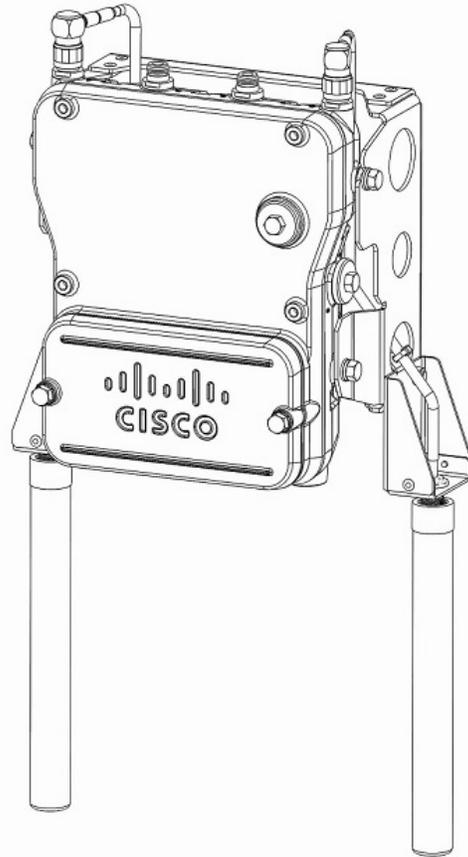
1	ケーブルタイ	2	RF ケーブル
3	L 字金具	4	N コネクタ

ステップ 9 RF ケーブルの直角 N コネクタをアクセスポイント（トルク 12 ~ 15 インチポンド）のアンテナポートに取り付けます。



1	RF ケーブル	2	L 字金具
---	---------	---	-------

ステップ 10 アンテナを RF ケーブルの N コネクタに接続します。アンテナを N コネクタに手で締めます。



ステップ 11 「アクセスポイントの接地 (37 ページ)」と「アクセスポイントへの電源供給 (39 ページ)」に進みます。

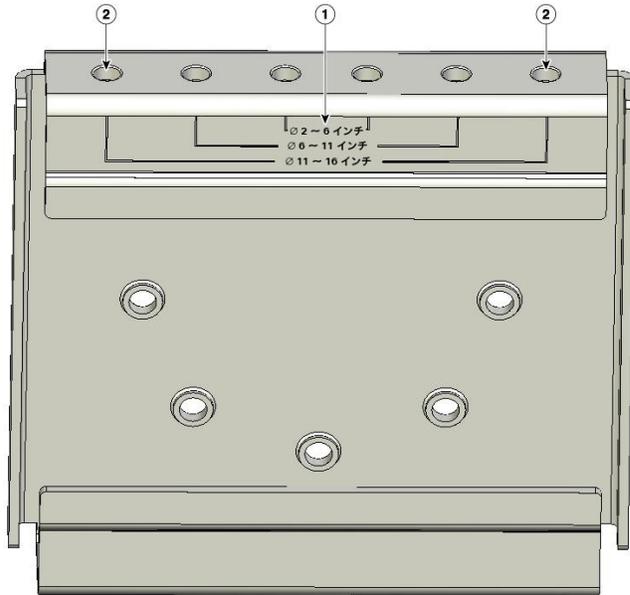
支柱へのアクセスポイントの取り付け

アクセスポイントを垂直な支柱に設置する場合は、オプションの Cisco 支柱取り付けキットを使用します。このキットは、直径が 2 ~ 16 インチの金属製、木製、またはファイバグラス製の柱への取り付けをサポートしています。

支柱クランプブラケットと取り付けブラケットの組み立て

柱取り付けキットには、支柱への取り付け前に組み立てが必要な部品がいくつかあります。まず、アクセスポイントを取り付ける支柱の直径に合わせて、支柱クランプブラケットの 2 つのストラップブラケットを組み立てます。次の図に、支柱の直径インジケータと支柱クランプブラケットのボルト穴を示します。

図 9: 支柱クランプブラケットの調整穴の位置



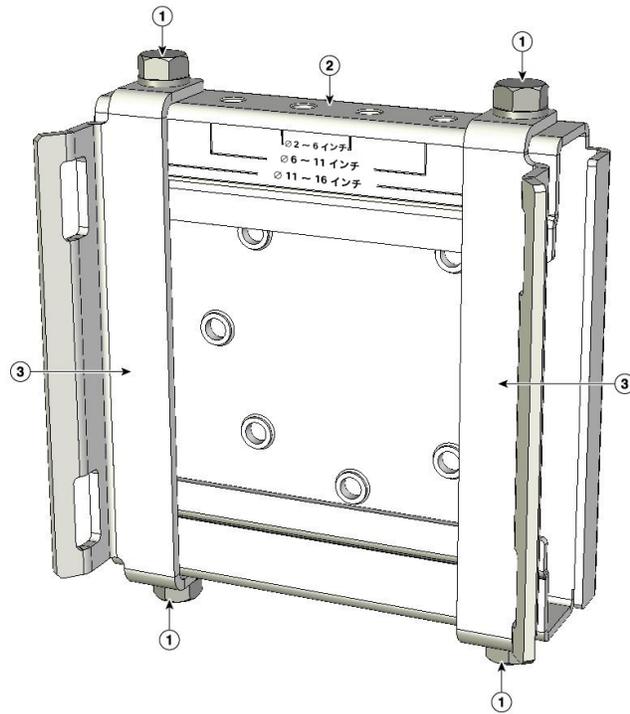
1	支柱サイズのインジケータ <ul style="list-style-type: none"> • 5.08 ~ 15.24 cm (2 ~ 6 インチ) • 15.24 ~ 27.94 cm (6 ~ 11 インチ) • 27.94 ~ 40.64 cm (11 ~ 16 インチ) 	2	支柱の直径に適合するボルト穴 (27.94 ~ 40.64 cm (11 ~ 16 インチ) 表示)
---	--	---	---

支柱クランプブラケットを組み立てるには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 取り付ける支柱の直径に合わせて、支柱クランプブラケットの適切なボルト穴にストラップブラケットを取り付け、2本の M8 x16 のボルト（ロックワッシャ付き）でそれぞれしっかりと固定します。このボルトを 17.6 ~ 20.3 Nm（13 ~ 15 フィートポンド）で締めます。

図 10:組み立て後の支柱クランプブラケットとストラップブラケット



1	M8x1.25x16 ボルト (ロックワッシャ付き)	2	支柱クランプブラケット
3	ストラップブラケット (直径 11 ~ 16 インチの支柱に合わせた場合)		

ステップ 2 M8 ナットを支柱クランプブラケットの支持ボルトにねじ込み、ボルトが脱落しないようにナットを締めます。

ステップ 3 「支柱への取り付け (16 ページ)」に進みます。

支柱への取り付け

アクセスポイントを垂直な支柱に取り付ける場合は、2本の金属帯を支柱に設置して支持します。この手順を実施するには、支柱取り付けキットには付属していない工具や資材が別途必要です (次の表を参照)。

表 2: 支柱へのアクセスポイントの取り付けに必要な資材

取り付け方法	必要な資材	キットに付属
垂直な支柱または街路灯	1.9 cm (0.75 インチ) のステンレススチール製バンド 2 個	○
	結束ストラップ用工具 (BAND IT) (Cisco AIR-BAND-INST-TL=)	×
	アースラグ (アクセスポイントに付属)	○
	アースラグ用の圧着工具 Panduit CT-720 (CD-720-1 ダイ付き) (http://onlinecatalog.panduit.com)	×
	#6 AWG アース線	×

アクセスポイントを垂直な支柱に取り付けるには、次の手順を実施します。

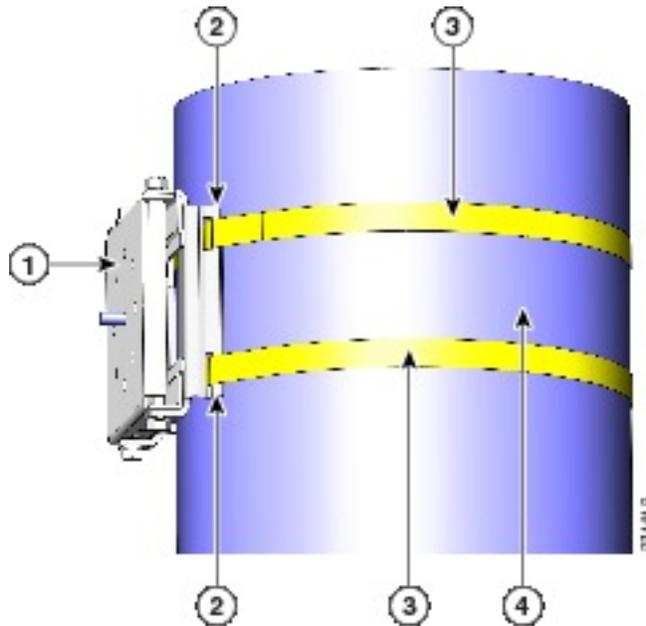
手順

ステップ 1 アクセスポイントを取り付ける支柱上の位置を決めます。アクセスポイントは、直径が 5.1 ～ 40.6 cm (2 ～ 16 インチ) の支柱に取り付けることができます。

ステップ 2 直径 8.9 cm (3.5 インチ) より太い支柱の場合は、金属製ストラップを 2 本使用して、支柱クランプブラケットアセンブリを支柱に取り付けます。ストラップ用工具 (BAND IT) (AIR-BAND-INST-TL=) に同梱されている手順に従い、ストラップブラケットのスロットを通して、各金属製ストラップを 2 回巻きます。

注意 支柱クランプブラケットとストラップブラケットの間の広く空いた空間に金属製ストラップを通して巻かないでください。アクセスポイントを確実に固定できなくなります。

図 11: 直径 8.9 cm (3.5 インチ) より太い支柱に取り付けたクランプブラケット組み立て図



1	支柱クランプブラケット	3	金属製の取り付けストラップ
2	ストラップブラケットのストラップ スロット	4	支柱

ステップ 3 直径が 8.9 cm (3.5 インチ) 以下の支柱の場合は、支柱クランプブラケットとストラップブラケットの間の隙間に2本の金属製ストラップを通し、そのストラップを使用して、支柱クランプブラケットを支柱にしっかり固定します。これにより、最大強度で固定できます。ストラップ用工具 (BANDIT) (AIR-BAND-INST-TL=) に同梱されている手順に従い、各金属ストラップを2回巻きます。

注意 支柱クランプブラケットとストラップブラケットの間の広く空いた空間に金属製ストラップを通して巻かないでください。アクセスポイントを確実に固定できなくなります。

ステップ 4 必要に応じて、金属ストラップを締める前に支柱に支柱クランプブラケットを設置します。

(注) 金属製ストラップを完全に締め付けると、金属製ストラップを切断または分解しない限り、支柱クランプブラケットを調整できなくなります。

ステップ 5 結束ストラップ (BANDIT) (Cisco AIR-BAND-INST-TL=) に同梱の説明書に従い、結束ストラップを使用して金属ストラップを締めます。金属バンドはできる限り固く締めてください。

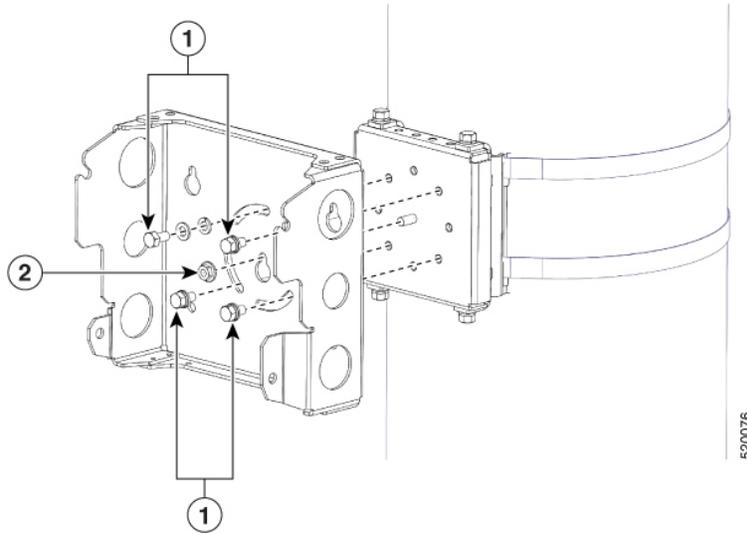
ステップ 6 支柱クランプブラケットの支持ボルトの上に、取り付けブラケットを置きます。

ステップ 7 M8 x16 ボルト 4 本を (平ワッシャとスプリングワッシャを併用して) ボルト穴にねじ込みます。

ステップ 8 ボルトとナットを手で締めます (強く締めすぎないでください)。

ステップ 9 取り付けブラケットの上端が水平になるように調節し、ボルトとフランジナットを 17.6～20.3 Nm（13～15 フィートポンド）で締めます。

図 12: 取り付けブラケットの装着



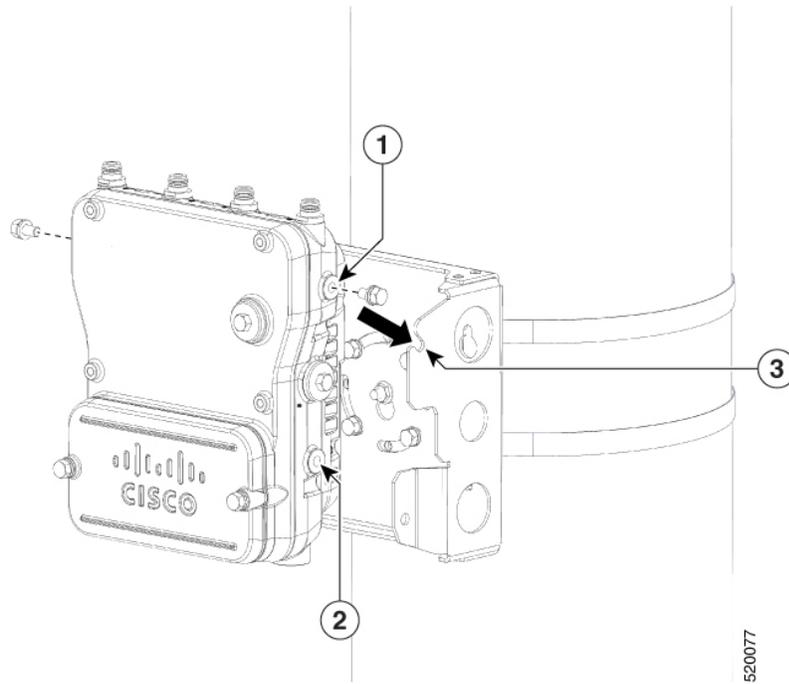
1	M8 x16 ボルト	2	フランジナット
---	------------	---	---------

ステップ 10 アクセスポイントの両側にある上部の支持ボルト穴に M8 x16 ボルト（平座金やゆるみ止め座金付き）をねじ込みます。ボルトを最後までねじ込まず、約 0.635 cm（0.25 インチ）の隙間を残しておきます。

ステップ 11 アクセスポイントの 2 本のボルトを取り付けブラケットのハンズフリー接続ポイントの位置に合わせます。

（注） アクセスポイントは、LED を地上から確認できるように、LED のある面が下側、ヒンジ付きカバーが外側を向く方向で取り付けます。

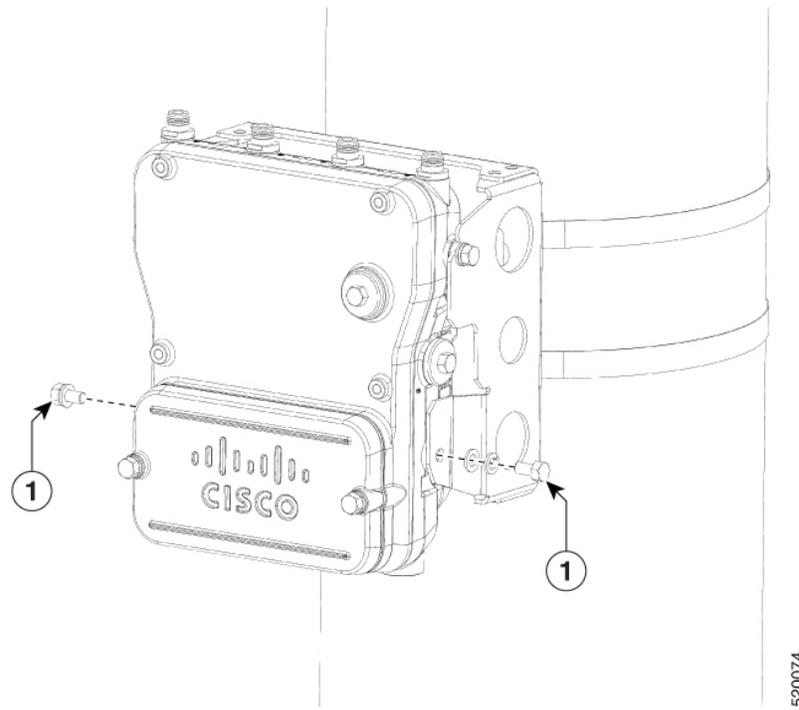
図 13: 上部支持ボルトを使用したハンズフリー接続ポイントへのアクセスポイントの取り付け



1	上部支持ボルト M8 x16 用の穴	3	ハンズフリー接続ポイント
2	2 番目の M8 x16 ボルト用の穴		

ステップ 12 平ワッシャおよびスプリングワッシャとともに、M8 x16 ボルトをアクセスポイントの各側面の 2 番目のボルト穴にねじ込みます。

図 14:2 番目の支持ボルトの取り付け

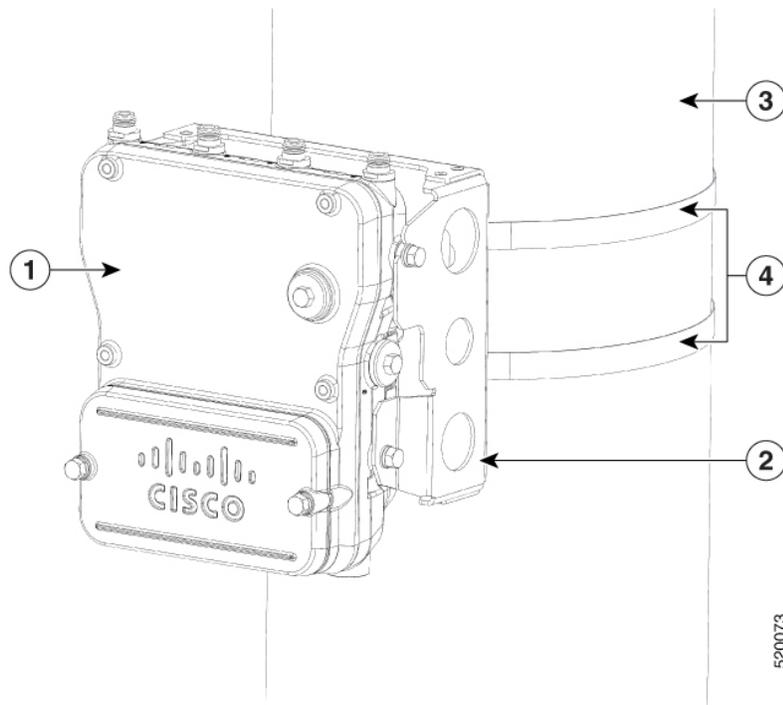


520074

1	M8 x16 ボルト
---	------------

ステップ 13 アクセスポイントの前面が垂直であることを確認し、4本のボルトを6〜7フィートポンド（8.1〜9.5 Nm）で締めます。

図 15: 取り付けブラケットに取り付けた組み立て済みのアクセスポイント



1	アクセスポイント	3	直径 2 ~ 16 インチ (5.1 ~ 40.6 cm) の柱 (木製、金属製、またはファイバグラス製)
2	取り付けブラケット	4	ステンレススチール製の取り付けストラップ

ステップ 14 Cisco Aironet デュアルバンド全方向性アンテナを使用する場合は、アンテナをアクセスポイントに接続します。アンテナをアクセスポイントに手でねじ込みます。

ステップ 15 「[アクセスポイントの接地 \(37 ページ\)](#)」と「[アクセスポイントへの電源供給 \(39 ページ\)](#)」に進みます。

L ブラケットによる支柱への取り付け

Cisco Catalyst IW6300 Heavy Duty シリーズ アクセスポイント は、アンテナを上向きにして垂直に設置するように設計されています。アンテナを下向きにする場合は、追加の L ブラケット (IOT-ACCPMK-LB) を使用する必要があり、お客様が指定した RF ケーブルが必要です。

アクセスポイントを垂直な支柱に取り付けるには、次の手順を実施します。

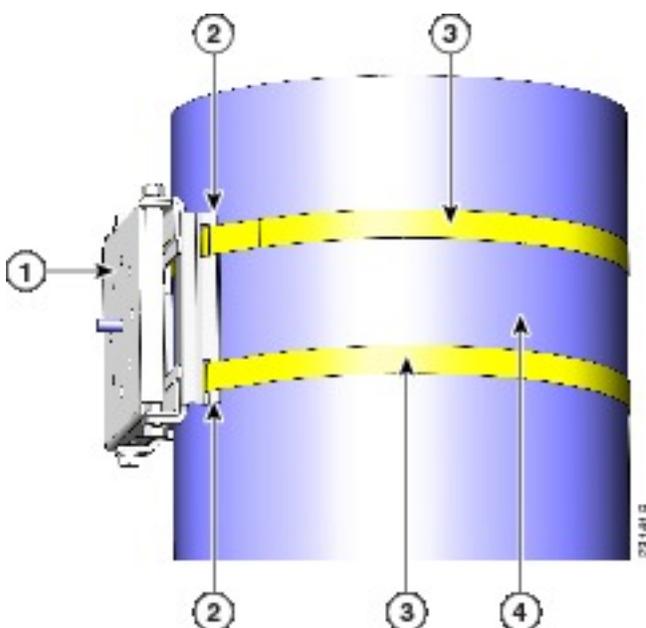
手順

ステップ1 アクセスポイントを取り付ける支柱上の位置を決めます。アクセスポイントは、直径が 5.1 ～ 40.6 cm (2 ～ 16 インチ) の支柱に取り付けることができます。

ステップ2 直径 8.9 cm (3.5 インチ) より太い支柱の場合は、金属製ストラップを 2 本使用して、支柱クランプブラケットアセンブリを支柱に取り付けます。ストラップ用工具 (BAND IT) (AIR-BAND-INST-TL=) に同梱されている手順に従い、ストラップブラケットのスロットを通して、各金属製ストラップを 2 回巻きます。

注意 支柱クランプブラケットとストラップブラケットの間の広く空いた空間に金属製ストラップを通して巻かないでください。アクセスポイントを確実に固定できなくなります。

図 16: 直径 8.9 cm (3.5 インチ) より太い支柱に取り付けたクランプブラケット組み立て図



1	支柱クランプブラケット	3	金属製の取り付けストラップ
2	ストラップブラケットのストラップスロット	4	支柱

ステップ3 直径が 8.9 cm (3.5 インチ) 以下の支柱の場合は、支柱クランプブラケットとストラップブラケットの間の隙間に 2 本の金属製ストラップを通し、そのストラップを使用して、支柱クランプブラケットを支柱にしっかり固定します。これにより、最大強度で固定できます。ストラップ用工具 (BAND IT) (AIR-BAND-INST-TL=) に同梱されている手順に従い、各金属ストラップを 2 回巻きます。

L ブラケットによる支柱への取り付け

注意 支柱クランプブラケットとストラップブラケットの間の広く空いた空間に金属製ストラップを通して巻かないでください。アクセスポイントを確実に固定できなくなります。

ステップ 4 必要に応じて、金属ストラップを締める前に支柱に支柱クランプブラケットを設置します。

(注) 金属製ストラップを完全に締め付けると、金属製ストラップを切断または分解しない限り、支柱クランプブラケットを調整できなくなります。

ステップ 5 結束ストラップ (BANDIT) (Cisco AIR-BAND-INST-TL=) に同梱の説明書に従い、結束ストラップを使用して金属ストラップを締めます。金属バンドはできる限り固く締めてください。

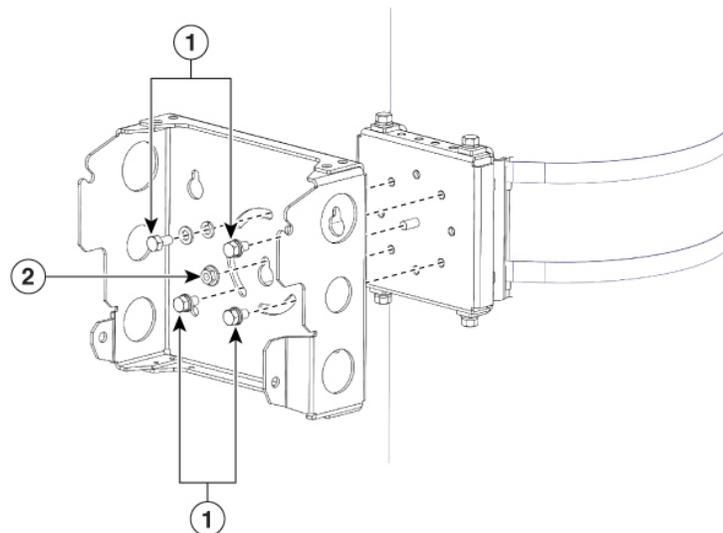
ステップ 6 支柱クランプブラケットの支持ボルトの上に、取り付けブラケットを置きます。

ステップ 7 M8 x16 ボルト 4 本を (平ワッシャとスプリングワッシャを併用して) ボルト穴にねじ込みます。

ステップ 8 ボルトとナットを手で締めます (強く締めすぎないでください)。

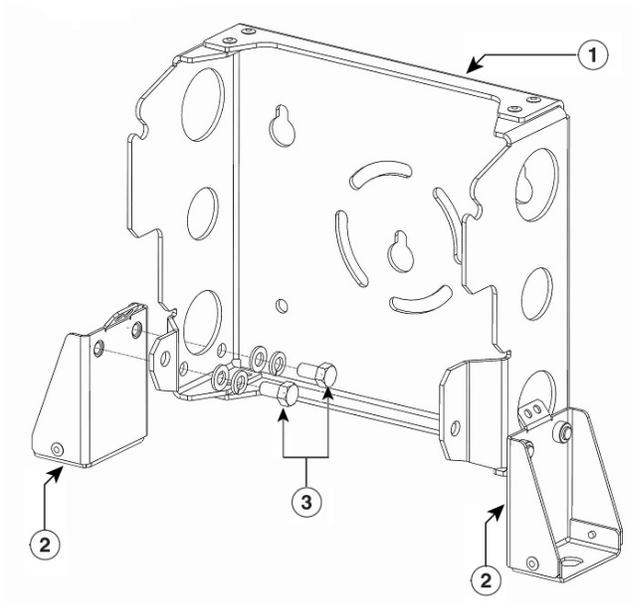
ステップ 9 取り付けブラケットの上端が水平になるように調節し、ボルトとフランジナットを 17.6 ~ 20.3 Nm (13 ~ 15 フィートポンド) で締めます。

図 17: 取り付けブラケットの装着



1	M8 x16 ボルト	2	フランジナット
---	------------	---	---------

ステップ 10 以下に示すように、4 本のボルト (平座金とゆるみ止め座金付き) を使用して、L ブラケットを取り付けブラケットに取り付けます。ボルトを 6 ~ 7 フィートポンド (8.1 ~ 9.5 Nm) で締めます。



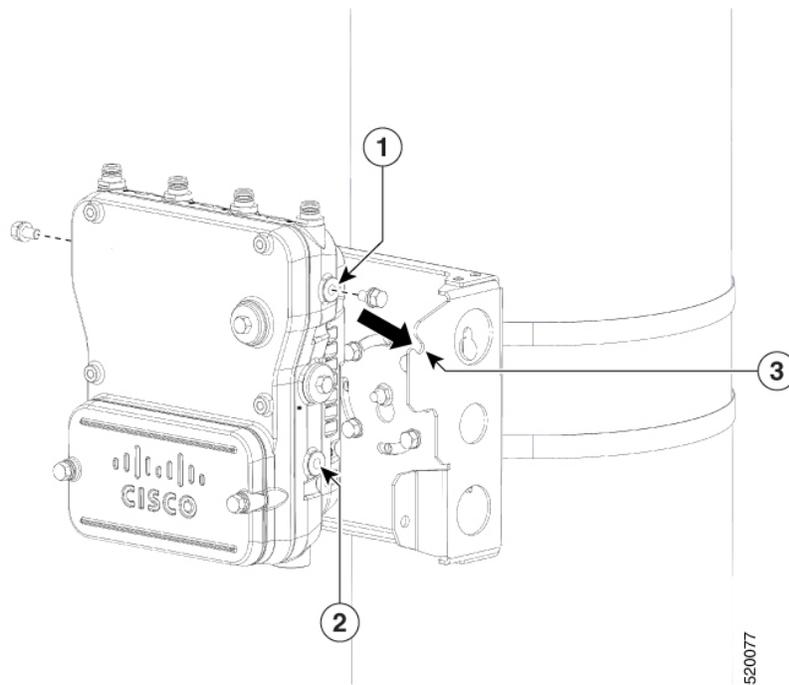
1	取り付けブラケット	3	M8 x16 ボルト
2	L 字金具		

ステップ 11 アクセスポイントの両側にある上部の支持ボルト穴に M8 x16 ボルト（平座金やゆるみ止め座金付き）をねじ込みます。ボルトを最後までねじ込まず、約 0.635 cm（0.25 インチ）の隙間を残しておきます。

ステップ 12 アクセスポイントの 2 本のボルトを取り付けブラケットのハンズフリー接続ポイントの位置に合わせます。

（注） アクセスポイントは、LED を地上から確認できるように、LED のある面が下側、ヒンジ付きカバーが外側を向く方向で取り付けます。

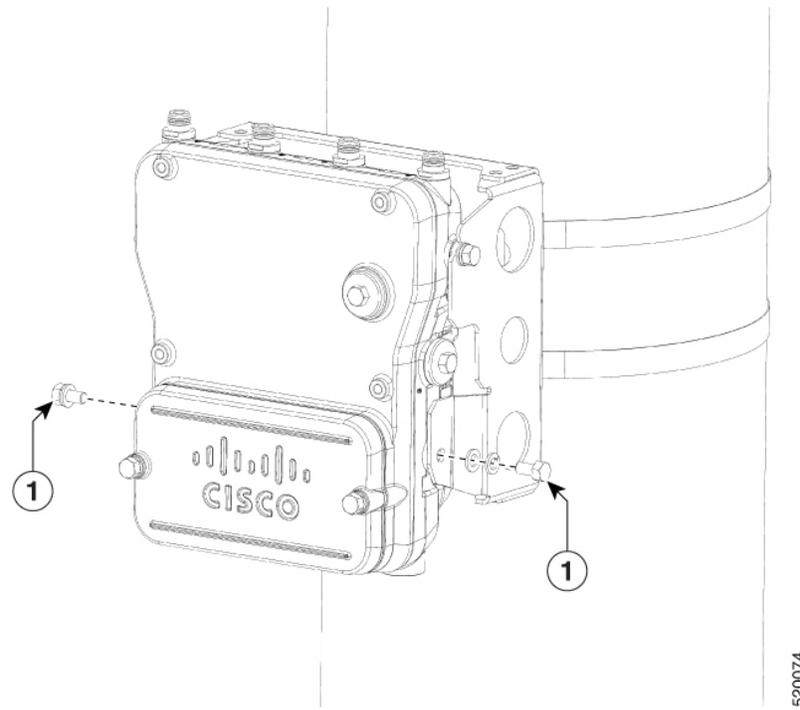
L ブラケットによる支柱への取り付け



1	上部支持ボルト M8 x16 用の穴	3	ハンズフリー接続ポイント
2	2 番目の M8 x16 ボルト用の穴		

ステップ 13 平ワッシャおよびスプリングワッシャとともに、M8 x16 ボルトをアクセスポイントの各側面の 2 番目のボルト穴にねじ込みます。

図 18:2 番目の支持ボルトの取り付け

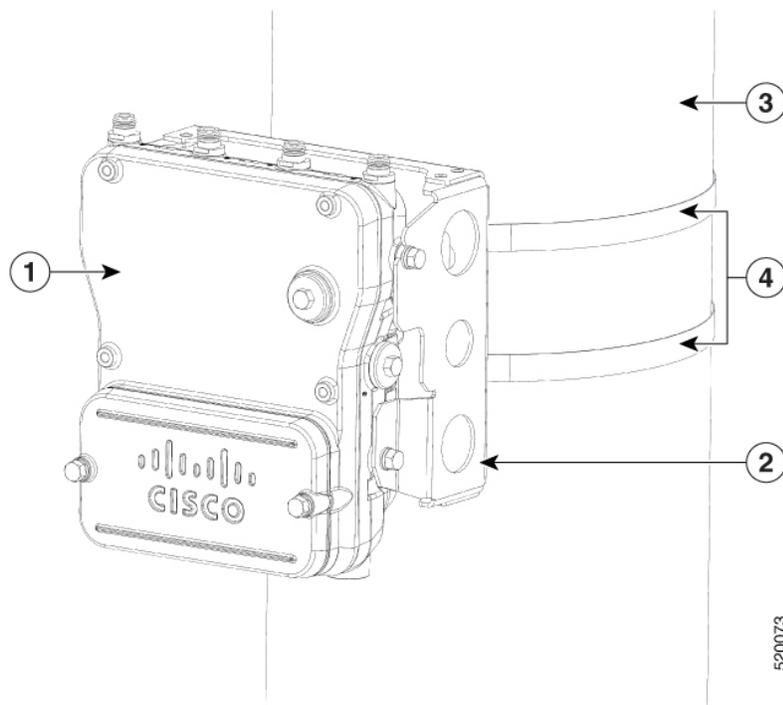


520074

1	M8 x16 ボルト
---	------------

ステップ 14 アクセスポイントの前面が垂直であることを確認し、4本のボルトを6〜7フィートポンド（8.1〜9.5 Nm）で締めます。

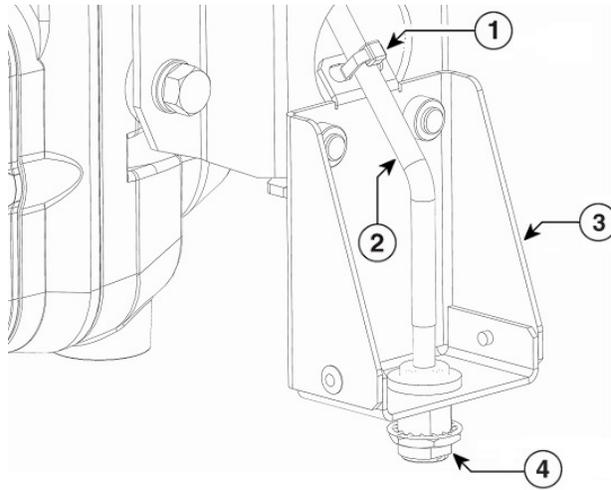
図 19: 取り付けブラケットに取り付けた組み立て済みのアクセスポイント



1	アクセスポイント	3	支柱（木製、金属製、またはファイバーグラス製）直径 5.1 ~ 40.6 cm（2 ~ 16 インチ）
2	取り付けブラケット	4	ステンレススチール製の取り付けストラップ

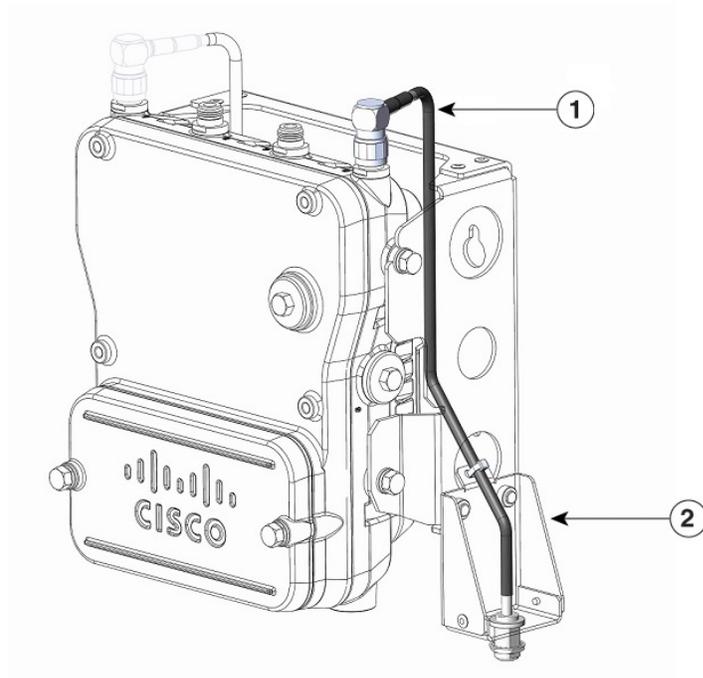
ステップ 15 RF ケーブルの N コネクタを L ブラケットに挿入し、平座金とナット（トルク 12 ~ 15 インチポンド）で取り付けます。以下に示すように、RF ケーブルをケーブルタイで L ブラケットに固定します。

（注） RF ケーブルの場合、直角 N 型オスから N 型メスのバルクヘッドコネクタを備えた 17 インチ LMR240DB ジャンパーを使用することをお勧めします。このケーブルの詳細については、「<https://ventevinfra.com/product/17in-lmr240db-jumper-with-right-angle-n-style-male-to-n-style-female-bulkhead-connectors/>」を参照してください。



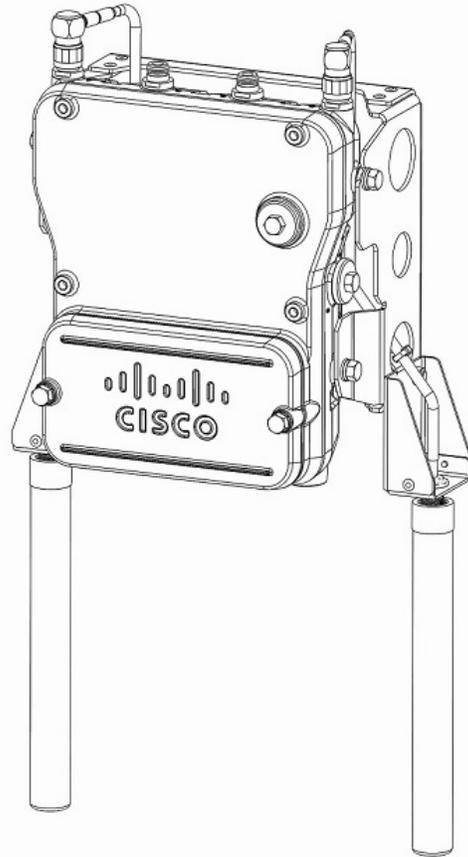
1	ケーブルタイ	2	RF ケーブル
3	L 字金具	4	N コネクタ

ステップ 16 RF ケーブルの直角 N コネクタをアクセスポイント（トルク 12 ~ 15 インチポンド）のアンテナポートに取り付けます。



1	RF ケーブル	2	L 字金具
---	---------	---	-------

ステップ 17 アンテナを RF ケーブルの N コネクタに接続します。アンテナを N コネクタに手で締めます。



ステップ 18 「アクセスポイントの接地 (37 ページ)」と「アクセスポイントへの電源供給 (39 ページ)」に進みます。

アクセスカバーの取り扱い

この項では、アクセスポイントのアクセスカバーの開閉について説明します。

アクセスカバーを開く



注意 エリアが安全で、AP の電源がオフになっている場合を除き、アクセスカバーは開けないでください。

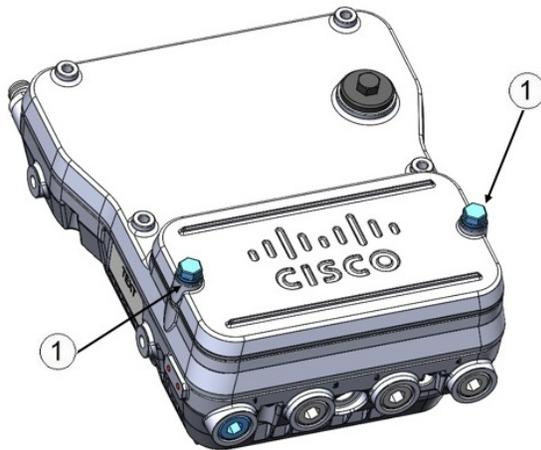
AC または DC の端子ブロックやイーサネットポートにアクセスする場合および光ファイバ SFP モジュールの設置時にはアクセスカバーを開く必要があります。

アクセスカバーを開くには、次の手順を実施します。

手順

- ステップ1** 13mm (0.5インチ) のメガネレンチまたはソケットセットを使用して、ユニットの前面カバーの2本のボルトを取り外します。ボルトが手で簡単に回り、スプリングの上に乗るようになるまで2回転ほど緩めます。

図 20: カバーのアクセスポイントの正面図



1	M8 ボルト
---	--------

- ステップ2** カバーは底面にヒンジで取り付けられていて、ボルトは非脱落型になっています。カバーを慎重に開き、折りたたみます。

アクセスカバーを閉じる

アクセスカバーを閉じるには、次の手順を実施します。

手順

- ステップ1** Oリングのシール面にごみが付着しておらず、Oリングにも損傷がなく、溝に完全に収まっていることを確認します。
- ステップ2** アクセスカバーを閉じるときに内部のワイヤを挟まないように注意してください。
- ステップ3** アクセスポイントのすべての側面をカバーの面に慎重に合わせ、各ボルトを手でゆっくりと締め付けます。

- ステップ4** すべてのボルトを手で締めた後、13mmのメガネレンチまたはソケットを使用し、締め付け手順に従ってボルトを少しずつ締めていきます。各ボルトを3〜4フィートポンド（4.1〜5.4 Nm）で締めます。
- ステップ5** 同じ締め付けシーケンスを使用して手順3を繰り返し、各ボルトを6〜7フィートポンド（8.1〜9.5 Nm）で完全に締め付けます。

外部アンテナの取り付け



- (注) 5 GHz UNII-1 帯域で動作する場合、すべての全方向性アンテナは垂直に設置され、すべての指向性アンテナはメインビームが水平方向に平行または傾けて設置される必要があります。

次の表に、IW-6300H アクセスポイントでサポートされている外部アンテナを示します。

表 3: IW-6300H アクセスポイントでサポートされる外部アンテナ

製品 ID	周波数帯域	ゲイン	タイプ
AIR-ANT2547V-N	2.4 / 5 GHz	4 / 7 dBi	全方向性、垂直偏波、白色
AIR-ANT2547VG-N	2.4 / 5 GHz	4 / 7 dBi	全方向性、垂直偏波、灰色
AIR-ANT2547V-N-HZ	2.4 / 5 GHz	4 / 7 dBi	全方向性、垂直偏波、白色、危険な場所用
AIR-ANT2568VG-N	2.4 / 5 GHz	6 / 8 dBi	全方向性、垂直偏波、灰色
AIR-ANT2588P3M-N=	2.4 / 5 GHz	8 / 8 dBi	指向性、デュアル偏波、3 ポート
AIR-ANT2513P4M-N=	2.4 / 5 GHz	13 / 13 dBi	指向性、デュアル偏波、4 ポート
AIR-ANT2450V-N=	2.4 GHz	5 dBi	全方向性、垂直偏波、白色
AIR-ANT2450V-N-HZ=	2.4 GHz	5 dBi	全方向性、垂直偏波、白色、危険な場所用
AIR-ANT2450VG-N=	2.4 GHz	5 dBi	全方向性、垂直偏波、灰色
AIR-ANT2450HG-N=	2.4 GHz	5 dBi	全方向性、水平偏波、灰色
AIR-ANT2480V-N=	2.4 GHz	8 dBi	全方向性、垂直偏波
AIR-ANT2413P2M-N=	2.4 GHz	13 dBi	指向性、デュアル偏波、2 ポート
AIR-ANT5150VG-N=	5 GHz	5 dBi	全方向性、垂直偏波、灰色

製品 ID	周波数帯域	ゲイン	タイプ
AIR-ANT5150HG-N=	5 GHz	5 dBi	全方向性、水平偏波、灰色
AIR-ANT5180V-N=	5 GHz	8 dBi	全方向性、垂直偏波
AIR-ANT5114P2M-N=	5 GHz	13 dBi	指向性、デュアル偏波、2 ポート

これらのアンテナの設置手順と詳細情報については、次のアンテナガイドを参照してください。

『Cisco Industrial Routers and Industrial Wireless Access Points Antenna Guide』

<http://www.cisco.com/c/en/us/support/wireless/aironet-antennas-accessories/products-installation-guides-list.html>

アンテナを取り付けるときは、安全に関する注意事項に従います。安全性については、「アンテナを設置する際の安全に関する注意事項」を参照してください。

防爆および IP66/67 についてテストおよび認定されたアンテナ

危険場所に設置するアンテナは、パッシブのみで、定格 IP66/67 で、IEC 60079-0 に準拠している必要があります。次のアンテナは、危険な場所にあり、IW6300H シリーズで IP66/67 認定を受けています。

製品番号	説明
AIR-ANT5180V-N (Cisco PN 07-1062-01)	4.9 GHz ~ 5.8 GHz 8 dBi 全方向性、N コネクタ付き、Laird Technologies 社製
AIR-ANT2450V-N-HZ (Cisco PN 07-1133-01)	2.4 GHz 5 dBi 全方向性、N コネクタ付き、Pulse Electronics 社製
AIR-ANT2480V-N (Cisco PN 07-1058-01)	2.4 GHz 8 dBi 全方向性、固定 N 型オスコネクタ付き、Laird Corporation 社製
AIR-ANT2547V-N-HZ (Cisco PN 07-1134-01)	2.4-2.483. 5.25 ~ 5.85GHz 4/7 dBi 全方向性、Laird Technologies 社製
AIR-ANT5114P2M-N (Cisco PN 07-1192-01)	5 GHz 指向性 (パネル) アンテナ、Pctel Inc 社製
AIR-ANT2413P2M-N (Cisco PN 07-1193-01)	2.4 GHz 指向性 (パネル) アンテナ、Pctel Inc 社製
AIR-ANT2588P3M-N (Cisco PN 07-1194-01)	PDM24519-CS2 (パネル) アンテナ、Laird 社製
AIR-ANT2513P4M-N (Cisco PN 07-1284-01)	2.4 GHz/5 GHz 13 dBi (パネル) アンテナ、Laird Technologies 社製

IW6300Hおよび上記のアンテナを危険な場所の要件に準拠させるには、次の条件を満たす必要があります。

- 意図しない損傷からアンテナを保護するための対策が、Cisco Catalyst IW6300 Heavy Duty シリーズ アクセスポイントに提供されている。
- アンテナの最大インダクタンス（10 uH）および静電容量（0.01 uF）。
- アンテナには最大ケーブル長が 150 フィートのケーブルを使用する。
- シスコ以外が提供するケーブルを使用する場合は、ケーブル被覆に UL 認定の UV 定格が必要である。

アンテナ選択の例

次に、一般的な設置シナリオの場合に推奨されるアンテナと RF アクセサリの選択例を示します。



- (注) 4本のアンテナをシャーシに直結することはお勧めしません。アンテナを直結して 2.4 GHz と 5 GHz の両方の無線で無指向性カバレッジを提供するには、次の表の最初の行で説明されているように、IW-6300H をデュアルバンドモードで設定し、2本のデュアルバンド無指向性アンテナを接続することをお勧めします。

使用例	アンテナ	同軸ケーブル	避雷器/アダプタ	取り付け	アンテナモードの設定
両方の無線で全方向アクセスをカバー	デュアルバンド全方向性アンテナ AIR-ANT2547V-N、 AIR-ANT2547VG-N、 AIR-ANT2547V-N-HZ、 または AIR-ANT2568VG-N X 2	なし	なし	アンテナをポート A と B に直接接続します。ポート C と D には耐候性キャップを取り付けます。	デュアルバンド

使用例	アンテナ	同軸ケーブル	避雷器/アダプタ	取り付け	アンテナモードの設定
2.4 GHz で全方向アクセス、5 GHz でバックホール	デュアルバンド全方向性アンテナ AIR-ANT2547V-N、 AIR-ANT2547VG-N、 AIR-ANT2547V-N-HZ または AIR-ANT2568VG-N X 2、あるいは 2.4 GHz 5 dBi 全方向性アンテナ AIR-ANT2450V-N、 AIR-ANT2450VG-N、 AIR-ANT2450V-N-HZ または AIR-ANT2450HG-N X 2、あるいは 2.4 GHz 8 dBi 全方向性アンテナ AIR-ANT2480V-N X 2 および 5 GHz 13 dBi 指向性アンテナ AIR-ANT5114P2M-N=X 1	N (m) -N (m) ケーブル X 2 : CAB-L400-5-N-N CAB-L400-5-N-NS CAB-L400-20-N-N CAB-L600-30-N-N または AIR-CAB025HZ-N	N (m) -N (f) 避雷器 X 2 CGR-LA-NM-NF および N (f) -N (f) アダプタ AIR-ACC370-NF-NF X 2	2.4 GHz 全方向性アンテナ 2 本をポート A と B に直接接続します。付属の金具で 5 GHz の指向性アンテナを取り付け、アダプタ、同軸ケーブル、避雷器（必要な場合）を介してポート C と D に接続します。	シングルバンド
5 GHz で全方向アクセス、2.4 GHz でバックホール	2.4 GHz 13 dBi 指向性アンテナ AIR-ANT2413P2M-N=x 1 およびデュアルバンド全方向性アンテナ AIR-ANT2547V-N、 AIR-ANT2547VG-N、 AIR-ANT2547V-N-HZ または AIR-ANT2568VG-N x 2、あるいは 5 GHz 5 dBi 全方向性アンテナ AIR-ANT5150VG-N または AIR-ANT5150HG-N x 2、あるいは 5 GHz 8 dBi 全方向性アンテナ AIR-ANT5180V-N x 2	N (m) -N (m) ケーブル X 2 : CAB-L400-5-N-N CAB-L400-5-N-NS CAB-L400-20-N-N CAB-L600-30-N-N または AIR-CAB025HZ-N	N (m) -N (f) 避雷器 X 2 CGR-LA-NM-NF および N (f) -N (f) アダプタ AIR-ACC370-NF-NF X 2	5 GHz 全方向性アンテナ 2 本をポート C と D に直接接続します。付属の金具で 2.4 GHz の指向性アンテナを取り付け、アダプタ、同軸ケーブル、避雷器（必要な場合）を介してポート A と B に接続します。	シングルバンド

使用例	アンテナ	同軸ケーブル	避雷器/アダプタ	取り付け	アンテナモードの設定
両方の無線で指向性アクセス/バックホール。無線は両方とも同じ方向をカバー	2.4-GHz/5-GHz 8-dBi 指向性アンテナ AIR-ANT2588P3M-N=X 1	N (m) –N (m) ケーブル X 2 : CAB-L400-5-N-N CAB-L400-5-N-NS CAB-L400-20-N-N CAB-L600-30-N-N または AIR-CAB025HZ-N	N (m) -N (f) 避雷器 CGR-LA-NM-NF X 2	同軸ケーブルをポート A と B からアンテナの 2 つの外部ポートに接続します。アンテナの未使用の中間ポートと IW-6300 のポート C と D を耐候性キャップで終端します。必要に応じて避雷器を使用します。	デュアルバンド
	4 ポートデュアルバンドの偏波ダイバーシティアンテナ AIR-ANT2513P4M-N=x 1	N (m) –N (m) ケーブル X 4 : CAB-L400-5-N-N CAB-L400-5-N-NS CAB-L400-20-N-N CAB-L600-30-N-N または AIR-CAB025HZ-N	N (m) -N (f) 避雷器 CGR-LA-NM-NF X 4	AIR-ANT2513P4M-N の 4 つのすべてのポートを IW-6300 の 4 つのすべてのポートに接続します。IW-6300 のどのポートを AIR-ANT2513P4M-N のどのポートに接続しても構いません。必要に応じて避雷器を使用します。	シングルバンド
両方の無線で指向性カバレッジ/バックホール。各無線で異なる方向をカバー	2.4 GHz 13 dBi 指向性アンテナ AIR-ANT2413P2M-N=X 1 と 5 GHz 13 dBi 指向性アンテナ AIR-ANT5114P2M-N=X 1	N (m) –N (m) ケーブル X 4 : CAB-L400-5-N-N CAB-L400-5-N-NS CAB-L400-20-N-N CAB-L600-30-N-N または AIR-CAB025HZ-N	N (m) -N (f) 避雷器 X 4 CGR-LA-NM-NF および N (f) -N (f) アダプタ AIR-ACC370-NF-NF X 4	2.4 GHz パネルをポート A と B に接続し、5 GHz パネルをポート C と D に接続します。必要に応じて避雷器を使用します。	シングルバンド

サードパーティ製アンテナ

シスコはサードパーティ製アンテナには対応していません。サードパーティ製アンテナの RF 接続とコンプライアンスについてはユーザーの責任となります。シスコはサードパーティ製アンテナを推奨しておらず、Cisco Technical Assistance Center ではサードパーティ製アンテナに対

していかなるサポートも提供できません。シスコの FCC Part 15 コンプライアンスは、シスコのアンテナまたはシスコのアンテナと同じ設計とゲインを持つアンテナでのみ保証されます。

アクセスポイントの接地

設置場所のすべての接地要件が満たされていることを確認します。アースラグはデバイスに付属しています。



警告 この装置は、アースさせる必要があります。アース導体を破損しないよう注意し、アース導体を正しく取り付けないまま装置を稼働させないでください。アースが適切かどうかははっきりしない場合には、電気検査機関または電気技術者に確認してください。ステートメント 1024



警告 この装置は、放射およびイミュニティに関する要件に準拠するようにアースされていることが前提になっています。通常の使用時には、必ずスイッチのアースラグがアースされているようにしてください。ステートメント 2004



(注) 6 AWG (13.3 mm²) 以上の銅線と内径 1/4 インチ (6 ~ 7 mm) の丸端子を使用してください。

アクセスポイントは、電源に接続する前に接地する必要があります。

屋外に設置する場合には、次の手順に従って本体を適切に接地する必要があります。

手順

ステップ 1 6 AWG の絶縁アース線を使用する場合は、アースラグに接続できるように絶縁被覆をはがします。

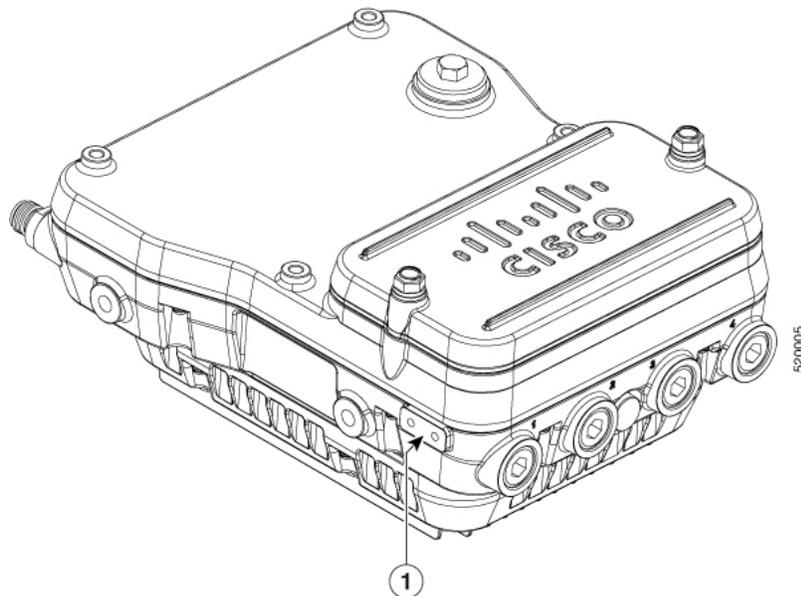
ステップ 2 適切な圧着工具を使用して、絶縁被覆を取り除いた 6 AWG のアース線をアースラグに圧着します。

(注) アースラグおよび使用する機材は、地域および国の電気規格に準拠する必要があります。



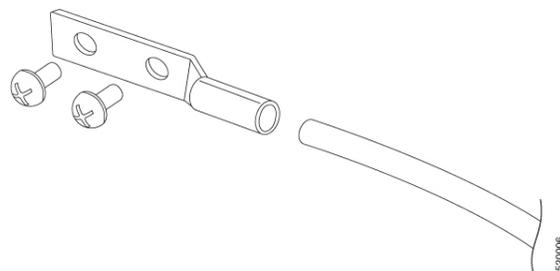
ステップ3 付属の耐食剤を開け、アース線のネジ穴がある金属表面（「アースパッド」）に適当な量を塗布します（次の図を参照）。

図 21: APの右側にあるアースパッドの位置



1	アース線のネジ穴があるアースパッド
---	-------------------

ステップ4 付属の2本のプラスネジ（M4 x10 mm）とロックワッシャを使用して、アースラグをアクセスポイントのアースネジ穴に接続します。アースネジを22～24 ポンドインチ（2.49～2.71 Nm）で締めます。

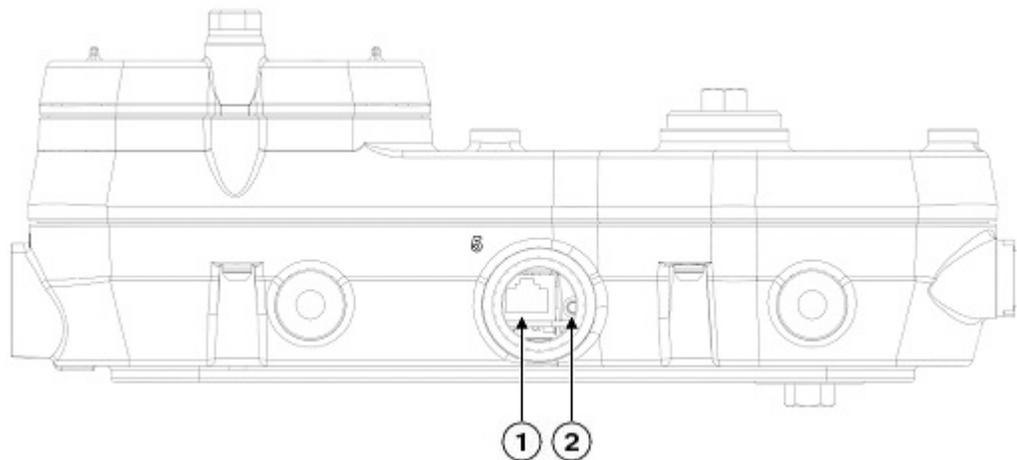


ステップ5 必要に応じて、アース線のもう一方の端の絶縁被覆を取り除いて、接地ロッドなどの信頼できる接地点または接地された金属製の街路灯の柱などの適切な接地点に接続します。

リセットボタンの使用

アクセスポイントにはユニットの右側にリセットボタンがあります（次の図を参照）

図 22: IW-6300H アクセスポイントのコンソールポートとリセットボタン



1	コンソールポート	2	リセットボタン
---	----------	---	---------

リセットボタンは M25 カバープラグの下にあります。設置時およびプラグの取り付け/取り外し時には常に、プラグを適切に締め付けます。ネジは 5 ～ 6 ポンドフィートで締め付けます。プラグが適切に締め付けられていないと IP67 の基準に適合せず、ユニットに水が侵入する可能性があります。

アクセスポイントへの電源供給

アクセスポイントには、次のいずれかの方法で電源を供給できます。

- イーサネット経由の電源供給
 - パワーインジェクタ、AIR-PWRINJ-60RGD1= および AIR-PWRINJ-60RGD2=
 - Power over Ethernet Plus (PoE+) または Cisco Universal Power over Ethernet (UPOE) スイッチ
- AC 電源または DC 電源
 - IW-6300H-AC-x-K9 : 85 ～ 264V (最大)、100 ～ 240V マーク、50 ～ 60Hz、1.3A

- IW-6300H-DC-x-K9 : 44 ~ 57VDC、1.2A
- IW-6300H-DCW-x-K9 : 10.8 ~ 36VDC、5.9A



(注) マークされた DC 入力範囲は絶対範囲です。許容差を適用しないでください。



(注) 上記のいずれの場合も、アクセスポイントに電力を供給する AC 分岐回路は、ユーザーが用意する過電流遮断デバイスから 20A 以内に制限する必要があります。この分岐電源保護は、各地域および各国の電気規定に適合する必要があります。

危険な場所用の IW6300 アクセスポイントは複数の電源に接続できます。アクセスポイントは使用可能な電源を検出し、次の優先順位で対象の電源に切り替えます。

1. AC 電源または DC 電源
2. Power over Ethernet

パワーインジェクタの接続

パワーインジェクタは、イーサネットケーブル経由でアクセスポイントに 55 VDC の電源を供給し、スイッチからアクセスポイントまでの全長 100 m (328 フィート) のイーサネットケーブルに対応します。



注意 パワーインジェクタ AIR-PWRINJ-60RGDx= は危険な場所への設置が認められていません。



(注) パワーインジェクタでアクセスポイントが動作している場合は、PoE 出力電源は無効になります。ただし、パワーインジェクタを使用している場合、PoE 出力データリンクはアクティブのままになります。

オプションのパワーインジェクタでアクセスポイントを動作させる場合は、次の手順に従って設置します。

手順

- ステップ 1** アクセスポイントに PoE で給電する前に、そのアクセスポイントが接地済みであることを確認します（「[アクセスポイントの接地 \(37 ページ\)](#)」を参照）。

ステップ 2 CAT5e 以上のイーサネットケーブルを有線 LAN ネットワークからパワーインジェクタに接続します。

危険 火災の危険性を抑えるため、必ず 26 AWG 以上の太さの電話線コードを使用してください。ステートメント 1023

アクセスポイントにはパワーインジェクタ (AIR-PWRINJ-60RGDx=) のみを使用します。

(注) 設置者には、このタイプのパワーインジェクタによるアクセスポイントへの電源供給が、地方または国の安全検査と通信機器の基準を満たしていることを確認する責任があります。

ヒント ブリッジトラフィックを転送するには、パワーインジェクタとコントローラの間にはスイッチを追加します。詳細については、最新の『Cisco Wireless Mesh Access Points, Design and Deployment Guide』を参照してください。

ステップ 3 アクセスポイントの電源を入れる前に、アンテナがアクセスポイントに接続され、アクセスポイントが接地されていることを確認してください。

ステップ 4 パワーインジェクタが接地されていることを確認します。詳細については、パワーインジェクタの設置ガイド

(https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/wireless/access_point/power/guide/air_pwrinj_60rgd.html) を参照してください。

ステップ 5 シールド付き屋外用イーサネットケーブル (CAT5e 以上) で、パワーインジェクタとアクセスポイントの PoE 入力コネクタ間を接続します。

ステップ 6 イーサネットケーブルをアクセスポイントの PoE 入力ポートに接続します (「[アクセスポイントへのイーサネットケーブルの接続 \(46 ページ\)](#)」を参照)。

(注) アクセスポイントが PoE+ または UPoE から受電している場合は、PoE 出力電源は無効になります。ただし、PoE 出力データリンクはアクティブのままです。

IW-6300H-AC-x-K9 への AC 電源の接続



(注) コンジットを接地するときは、各自治体の電気工事規定に従ってください。

アース線および AC 電源ケーブルを IW-6300H-AC-x-K9 アクセスポイントモデルに配線して接続する手順は、次のとおりです。



警告 固定配線の中にすぐに操作できる二極切断装置が組み込まれている必要があります。ステートメント 1022



警告 装置を設置または交換するときには、必ずアースを最初に接続し、最後に取り外します。ステートメント 1046

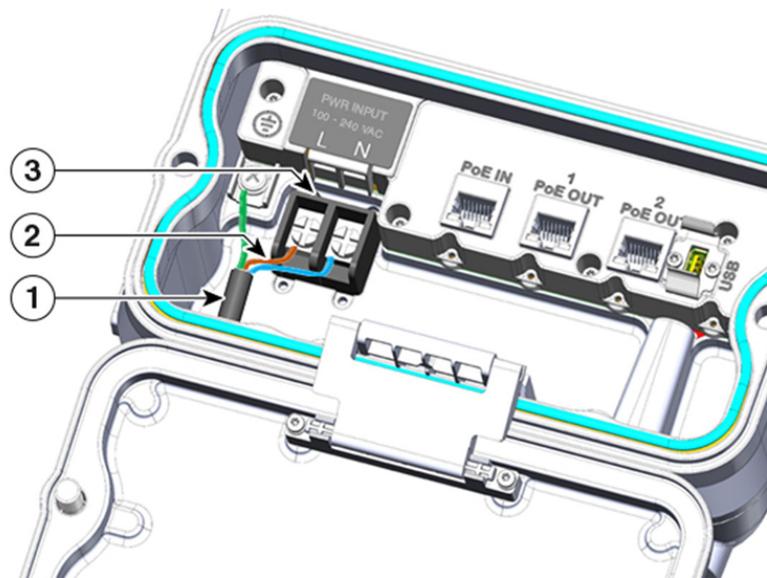


注意 すべての電源リード線を接続する前に、必ずアース線を取り付けてください。

手順

- ステップ1 アクセスポイントのカバーを開きます。手順については、「[アクセスカバーを開く \(30 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ2 6AWG (13.3 mm²) のアース線がアクセスポイントに接続されていることを確認します（「[アクセスポイントの接地 \(37 ページ\)](#)」を参照）。
- ステップ3 AC 電源ケーブルを 1/2-NPT ポートを通して引き込みます。

図 23: IW-6300H-AC-X-K9 の内部アースと AC 電源の接続



1	ハーネス (ユーザーが用意)	3	端子ブロック
2	お客様が用意するケーブル (ATEX のみ)		

- ステップ4 ワイヤストリッパ工具を使用して、各ワイヤの絶縁被膜をはがします。端子ブロックへの接続に必要な長さだけ、絶縁被膜をはがしてください。接続した後、むき出しになるワイヤ部分がないように注意してください。
- ステップ5 内部アースにアース線を差し込みます。

- ステップ6 それぞれの熱線を AC 入力端子ブロックに差し込みます。
- ステップ7 プラスドライバーで端末ブロックセットのネジを締め、ワイヤを端末ブロックに固定します。
- ステップ8 裸線が露出していないことを確認します。裸線が露出している場合、端子ブロックから取り外して長さを調節し、もう一度取り付けてください。
- ステップ9 仕上がりを確認します。
- ステップ10 アクセスポイントのカバーを閉じます。詳細については、[アクセスカバーを閉じる \(31 ページ\)](#) を参照してください。

IW-6300H-DCW-x-K9 への DC 電源の接続



警告 この製品は、設置する建物に短絡（過電流）保護機構が備わっていることを前提に設計されています。保護装置の定格が **10A** を超えていないことを確認してください。ステートメント 1005



警告 容易にアクセス可能な二極切断装置を固定配線に組み込む必要があります。ステートメント 1022



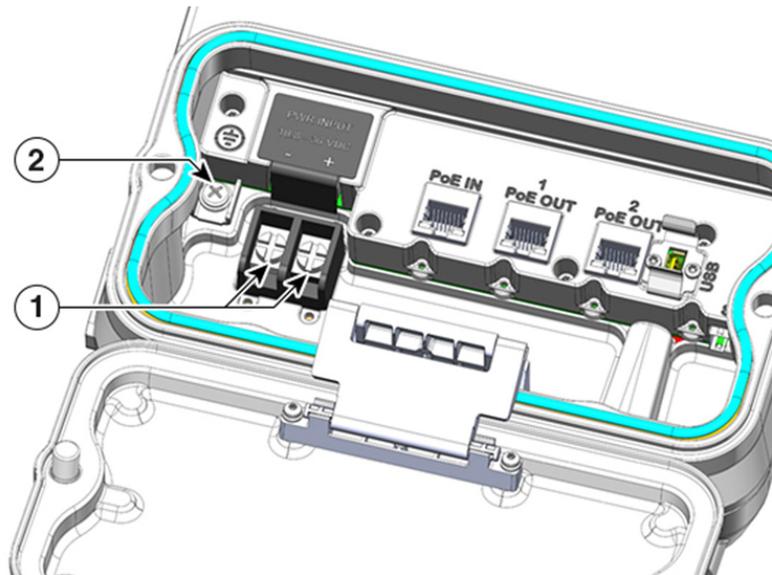
警告 感電のリスクを軽減するため、この装置は、IEC 60950 に基づく安全基準の安全超低電圧（SELV）要件または IEC 62368 に基づく安全基準の ES1 要件に適合した DC 電源にのみ接続してください。ステートメント 1033

電源ケーブルを IW-6300H-DCW-x-K9 モデルに配線して接続するには、次の手順を実施します。

手順

- ステップ1 アクセスポイントのカバーを開きます。手順については、「[アクセスカバーを開く \(30 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ2 6 AWG のアース線がアクセスポイントに接続されていることを確認します（「[アクセスポイントの接地 \(37 ページ\)](#)」を参照）。
- ステップ3 電源ケーブルを 1/2 NPT ポートを通じて配線します。
- ステップ4 ワイヤトリップ工具を使用して、各ワイヤの絶縁被膜をはがします。端子ブロックへの接続に必要な長さだけ、絶縁被膜をはがしてください。接続した後、むき出しになるワイヤ部分がないように注意してください。
- ステップ5 内部アースにアース線を差し込みます。
- ステップ6 それぞれの熱線を端子ブロックに差し込みます。

図 24: IW-6300H-DCW-x-K9 の内部アースと端子ブロックの位置



1	端子ブロック	2	内部アース
---	--------	---	-------

- ステップ 7 プラスドライバーで端末ブロックセットのネジを締め、ワイヤを端末ブロックに固定します。
- ステップ 8 裸線が露出していないことを確認します。裸線が露出している場合、端子ブロックから取り外して長さを調節し、もう一度取り付けてください。
- ステップ 9 仕上がりを確認します。
- ステップ 10 アクセスポイントのカバーを閉じます。詳細については、[アクセスカバーを閉じる \(31 ページ\)](#) を参照してください。

IW-6300H-DC-x-K9 への DC 電源の接続



警告 この製品は、設置する建物に短絡（過電流）保護機構が備わっていることを前提に設計されています。回線保護装置の定格が 5A を超えないことを確認してください。ステートメント 1005



警告 容易にアクセス可能な二極切断装置を固定配線に組み込む必要があります。ステートメント 1022



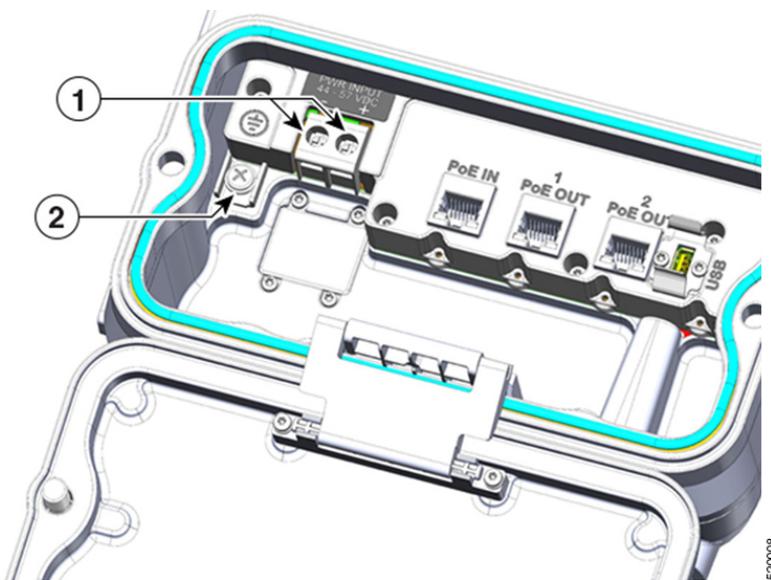
警告 感電のリスクを軽減するため、この装置は、IEC 60950 に基づく安全基準の安全超低電圧 (SELV) 要件または IEC 62368 に基づく安全基準の ES1 要件に適合した DC 電源にのみ接続してください。ステートメント 1033

電源ケーブルを IW-6300H-DC-x-K9 モデルに配線し、接続するには、次の手順を実施します。

手順

- ステップ 1 アクセスポイントのカバーを開きます。手順については、「[アクセスカバーを開く \(30 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 2 6 AWG のアース線がアクセスポイントに接続されていることを確認します（「[アクセスポイントの接地 \(37 ページ\)](#)」を参照）。
- ステップ 3 電源ケーブルを 1/2-NPT ポートを通じて配線します。

図 25: IW-6300H-DC-x-K9 の内部アースと DC 電源の接続



1	端子ブロック	2	内部アース
---	--------	---	-------

- ステップ 4 ワイヤストリッパ工具を使用して、各ワイヤの絶縁被膜をはがします。リング端子 (シスコ提供) にしっかりと接続するために必要な分だけ取り除いてください。
- ステップ 5 ターミナルストリップのネジと角ワッシャを取り外します。DC 線をターミナルストリップの位置に接続します。ターミナルストリップのネジを締め、リング端子とワイヤに固定します。
- ステップ 6 DC 入力コードをターミナルストリップの横のワイヤ固定アンカーに固定します。
- ステップ 7 仕上がりを確認します。

ステップ 8 アクセスポイントのカバーを閉じます。詳細については、[アクセスカバーを閉じる \(31 ページ\)](#) を参照してください。

データ ケーブルの接続

AP のすべてのモデルで、イーサネット ポートと Small Form-Factor Pluggable (SFP) ポート経由のデータ接続がサポートされています。ただし、イーサネット ポートと SFP ポートの両方をデータ用として同時に使用することはできません。

SFP が検出され、アクティブである場合、イーサネット ポートは切断されます。SFP が検出されない場合、イーサネット ポートの接続状態が維持されます。

SFP ポートを使用して光ファイバ ケーブル経由でデータを伝送する場合、AP には AC または DC 電源、またはパワーインジェクタから電源を供給する必要があります。

イーサネットの設置の詳細については、[アクセスポイントへのイーサネットケーブルの接続 \(46 ページ\)](#) を参照してください。

光ファイバ ケーブルの設置の詳細については、[AP への光ファイバ ケーブルの接続 \(47 ページ\)](#) を参照してください。

アクセスポイントへのイーサネットケーブルの接続

必要な工具および資材は次のとおりです。

- シールド付き屋外用イーサネットケーブル (CAT5e 以上)



(注) パワーインジェクタからアクセスポイントまでのイーサネットケーブルは、3.05m (10 フィート) 以上必要です。

- RJ-45 コネクタと設置工具
- 調整レンチ
- 認定ケーブルグラウンドまたはコンジット

シールド付きイーサネットケーブルをアクセスポイントに接続するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 パワーインジェクタの電源を切り離し、アクセスポイントのすべての電源がオフになっていることを確認します。

- ステップ 2** 6 AWG のアース線がアクセスポイントに接続されていることを確認します（「[アクセスポイントの接地（37 ページ）](#)」を参照）。
- ステップ 3** 3/8 インチの六角棒スパナを使用して、アクセスポイントから 1/2 インチの NPT I/O ポートプラグを取り外します。
- ステップ 4** イーサネットケーブルの終端されていない側をコンジットに差し込み、コンジットからケーブルを数インチ引き出します。
- ステップ 5** イーサネットケーブル取り付け工具を使用して、イーサネットケーブルの終端されていない側に RJ-45 コネクタを取り付けます。
- 警告** 火災の危険性を抑えるため、必ず 26 AWG 以上の太さの電話線コードを使用してください。ステートメント 1023
- ステップ 6** RJ-45 ケーブルコネクタを I/O ポートから慎重に挿入し、内部イーサネットコネクタに接続します。
- ステップ 7** イーサネットケーブルを配線し、余分なケーブルを切り落とします。
- ステップ 8** ケーブルの一方の終端されていない側に RJ-45 コネクタを取り付け、パワーインジェクタに差し込みます。
- ステップ 9** スレッドにシーラントを塗布してから、コンジットまたはケーブルグランドを取り付けます。カバーを閉じる前に、アクセスカバーガasket が完全に溝に入っていることを確認します。
- ステップ 10** アクセスポイントの電源を入れる前に、アンテナがアクセスポイントに接続されていることを確認します。
- ステップ 11** パワーインジェクタの電源を入れます。

AP への光ファイバケーブルの接続

AP に光ファイバケーブルを取り付けるには、次の資材が必要です。

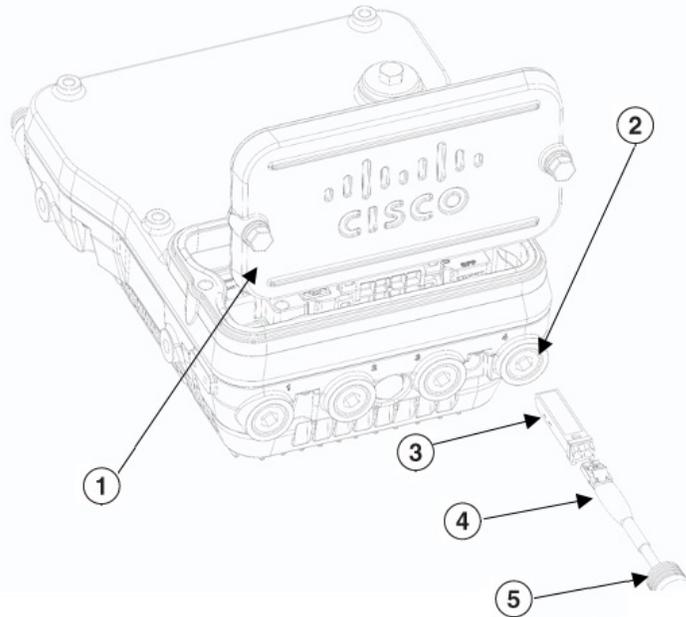
- Small Form-Factor Pluggable (SFP) トランシーバ モジュール。
- ケーブルグランドもコンジットも"付属していません。選択するケーブルサイズが、使用しているコンジットまたは Ex 認定ケーブルグランドに適していることを確認してください。
- モンキーレンチ

SFP ポートに光ファイバ ネットワーク ケーブルを接続できます。Small Form-Factor Pluggable (SFP) トランシーバ モジュールは、SFP ポートにケーブルを接続するために使用されます。SFP トランシーバ モジュールとケーブルを取り付けるには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** すべての電源がアクセスポイントから切り離されていることを確認します。

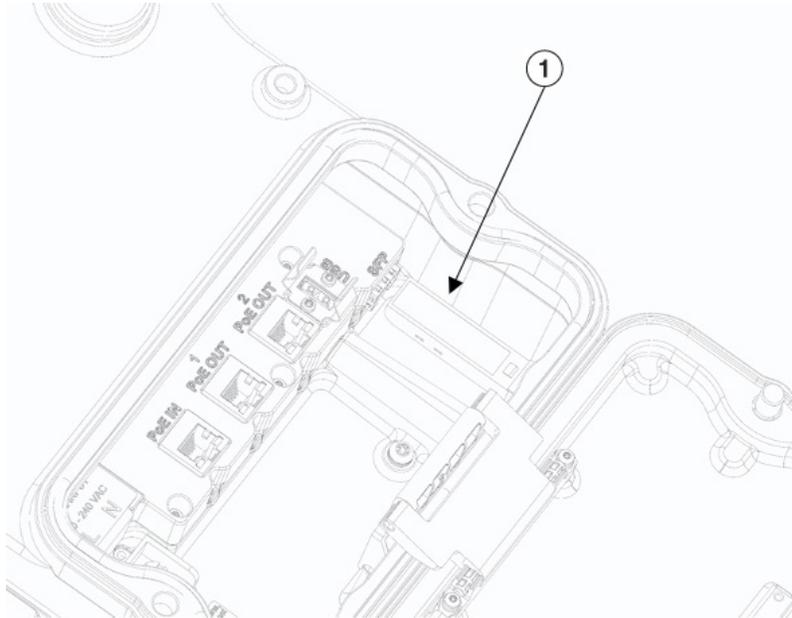
ステップ2 以下に示すように、3/8 インチの六角棒スパナを使用して I/O ポート 4 からカバープラグを取り外します。½ または 13mm ソケットの M8 ボルトを緩めてアクセスカバーを開き、カバーを後ろに回します。



1	アクセス カバー	4	光ファイバケーブル
2	入出力ポート 4	5	コンジットまたはケーブルグランド
3	SFP		

ステップ3 SFP モジュールを SFP ポートに挿入し、正しく固定されていることを確認します。

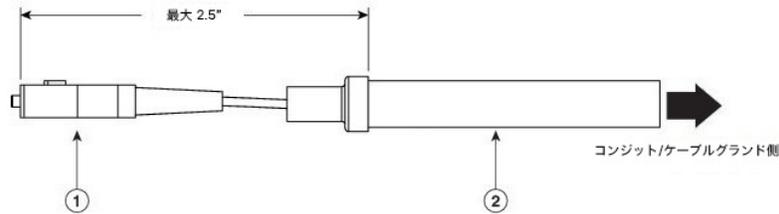
(注) アクセスカバーに寄りかかったり、押したりしないでください。



1	SFP
---	-----

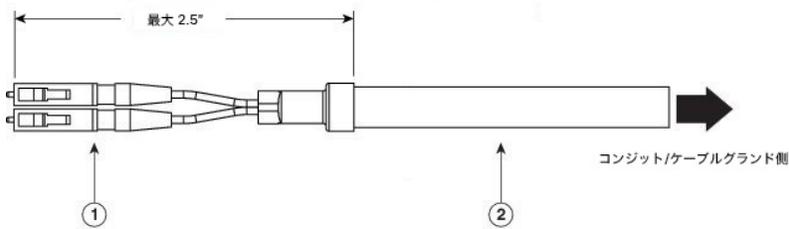
ステップ 4 メーカーの指示に従って、ケーブルをコンジットまたは認定ケーブルグラントに通します。ケーブルサイズは、光ファイバケーブルジャケットを設置する場所の最大露出寸法を満たす必要があります。

図 26: SC 光ファイバケーブル



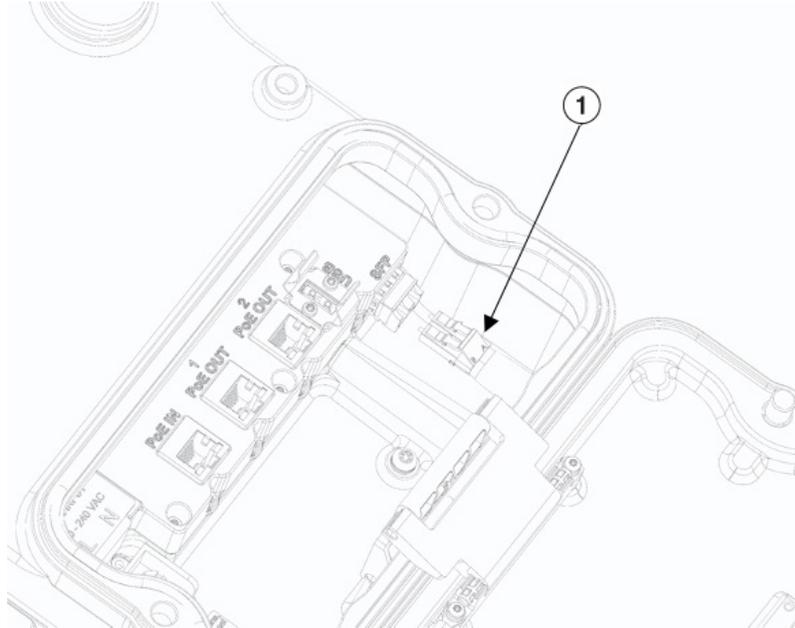
1	SC 光ファイバ コネクタ	2	ケーブルジャケット
---	---------------	---	-----------

図 27: デュプレックス LC 光ファイバケーブル



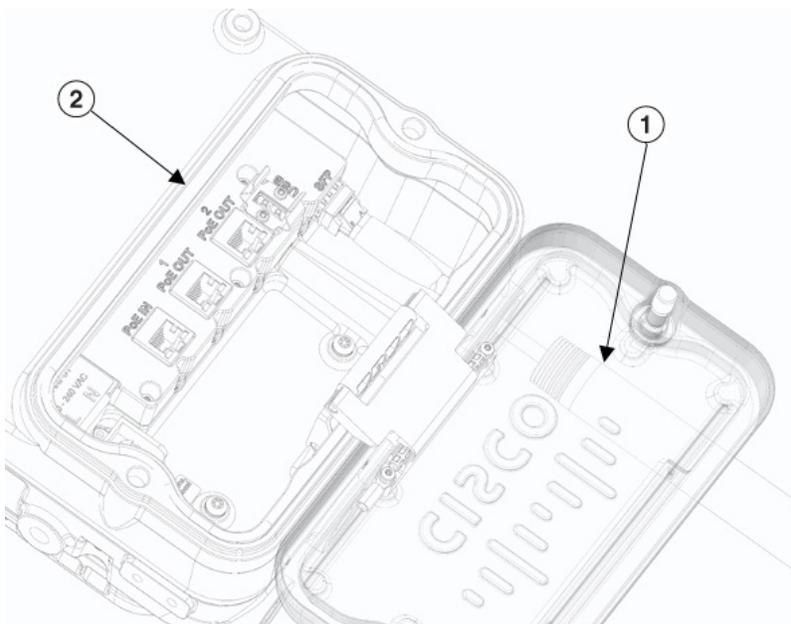
1	デュプレックス LC 光ファイバコネクタ	2	ケーブルジャケット
---	----------------------	---	-----------

ステップ 5 SC または LC 光ファイバコネクタを I/O ポート 4 を介して SFP モジュールに挿入し、所定の位置に固定されていることを確認します。



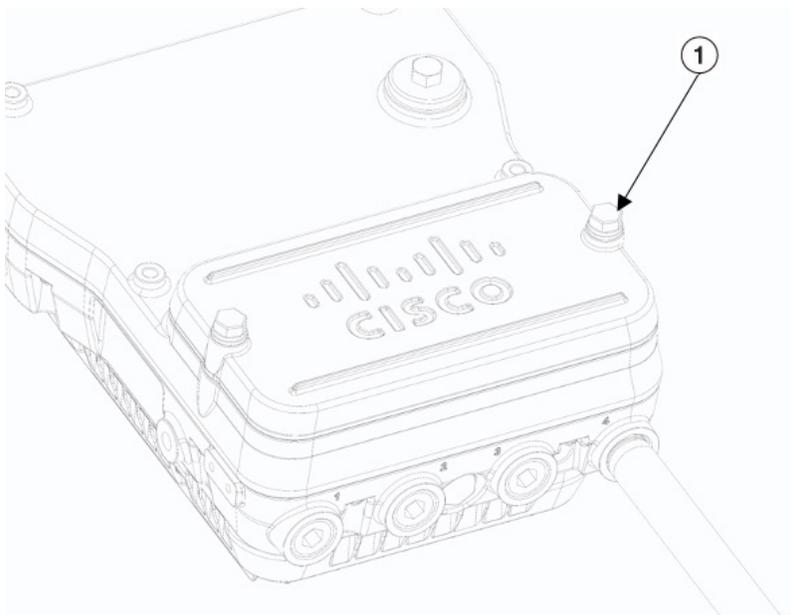
1	光ファイバケーブル
---	-----------

ステップ 6 スレッドにシーラントを塗布してから、コンジットまたはケーブルグランドを取り付けます。カバーを閉じる前に、アクセスカバーガスケットが完全に溝に入っていることを確認します。



1	コンジットまたはケーブルグランド	2	カバーを閉じる前に、ガスケットが完全に溝に入っていることを確認してください。
---	------------------	---	--

ステップ7 カバーを閉じ、M8 ボルトを6〜7フィートポンドのトルクで締めます。



1	M8 ボルト
---	--------

メンテナンスの実施

アクセスポイントは、可動部品、フィルタ、潤滑油、または機械的接触部品を採用していないため、最小限の定期保守または予防保守で済みます。ただし、危険な場所に設置する場合は定期検査を実施し、アクセスポイントが問題なく動作していることを確認する必要があります。ここでは、危険な場所に設置されたアクセスポイントのメンテナンスの実施について説明します。

メンテナンスに関するその他の詳細情報については、第4章の「[トラブルシューティング](#)」と『Troubleshooting a Mesh Network Guide』を参照してください。

アクセスポイントの使用の中止

アクセスポイントの使用を中止する場合は、カバーを開けて入力配線を取り外す前に、必ずアクセスポイントから電源を遮断してください。配線を取り外す場合は、アース接続は最後に取り外してください。

定期検査の実施

アクセスポイントの検査を定期的に行い、危険な場所で密閉性を保ったまま正常に動作していることを確認する必要があります。[表 4: 定期点検表 \(52 ページ\)](#) に検査手順とその周期を示します。

表 4: 定期点検表

検査手順	周期
O リングの密閉性と外側の電氣的接続部の老化、腐食、および接地抵抗の大きさを検査します。	3 年ごと
カバーおよび Liquid-Tight アダプタのガスケットの気密性を検査します。	5 年ごと

定期的なクリーニングの実施

アクセスポイントは、定期的にクリーニングしなくてもすむように設計されています。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。